

## 鄭 雄一

### 2 学術論文

- 1) Statistical Methods for Item Reduction in a Representative Lifestyle Questionnaire: Pilot Questionnaire Study. A Staffini, K Fujita, AK Svensson, UI Chung, T Svensson. *Interactive Journal of Medical Research* 11 (1), e28692, 2022
- 2) Temperature Dependence of Polymer Network Diffusion. T Fujiyabu, T Sakai, R Kudo, Y Yoshikawa, T Katashima, U Chung, N Sakumichi. *Physical review letters* 127 (23), 237801, 2021.
- 3) Heart rate modeling and prediction using autoregressive models and deep learning. A Staffini, T Svensson, U Chung, AK Svensson. *Sensors* 22 (1), 34, 2021.
- 4) Star - Polymer - DNA Gels Showing Highly Predictable and Tunable Mechanical Responses. M Ohira, T Katashima, M Naito, D Aoki, Y Yoshikawa, H Iwase, S Takata, K Miyata, U Chung, T Sakai, M Shibayama, X Li. *Advanced Materials*, 2108818, 2021.
- 5) Claims-based algorithms for common chronic conditions were efficiently constructed using machine learning methods. K Hara, Y Kobayashi, J Tomio, Y Ito, T Svensson, R Ikesu, U Chung, AK Svensson. *Plos one* 16 (9), e0254394, 2021.
- 6) Association of managerial position with cardiovascular risk factors: A fixed-effects analysis for Japanese employees. R Ikesu, A Miyawaki, AK Svensson, T Svensson, Y Kobayashi, U Chung. *Scandinavian journal of work, environment & health* 47 (6), 425, 2021.
- 7) Molecular crystallization directed by polymer size and overlap under dilute and crowded macromolecular conditions. Y Hata, X Li, U Chung, T Sakai. *Polymer Journal* 53 (5), 633-642, 2021.
- 8) An agent-based model of the local spread of SARS-CoV-2: Modeling study. A Staffini, AK Svensson, UI Chung, T Svensson. *JMIR medical informatics* 9 (4), e24192, 2021.
- 9) Frequency and amplitude analyses of calcium oscillations reveals the harmony regulated by ITAM receptors during RANKL-induced osteoclastogenesis. H Okada, H Kajiya, Y Omata, H Hojo, U Chung, K Okabe, T Miyamoto, S Tanaka. *Bone Reports* 14, 101038, 2021.
- 10) Power Laws Derived from a Bayesian Decision-Making Model in Non-Stationary Environments. S Shinohara, N Manome, Y Nakajima, YP Gunji, T Moriyama, H Okamoto, S Mitsuyoshi, U Chung. *Symmetry* 13 (4), 718, 2021.

### 4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 日本再生医療学会理事 (2010年3月より)
- 2) 日本バイオマテリアル学会評議員 (2006年4月より)
- 3) *Regenerative Therapy*(日本再生医療学会公式英文誌), Editor in Chief (2022年1月より)
- 4) *Science and Technology of Advanced Materials (STAM)*, Associate Editor
- 5) 検体検査機器の安全規格の JIS (日本工業規格) 化委員長 (2017年4月より)

- 6) 神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室 非常勤顧問 (2018年2月より)

## 5 社会貢献

- 1) 世界保健機構 (WHO) : WHO 高齢化部門が主催する Clinical Consortium on Healthy Ageing 専門家 (2017年より)
- 2) 国際標準化機構 (ISO) : TC210 (医療機器品質共通標準) 国内対策委員長 (2013年4月より)
- 3) 厚生労働省 : 国民が受ける医療の質の向上のための医療機器の研究開発及び普及の促進に関する協議のためのワーキンググループ 委員 (2015年3月より)

## 7 学会等での活動

- 1) Hiroyuki Okada, Hiroshi Kajiya, Yasunori Omata, Hironori Hojo, Ung-il Chung, Koji Okabe, Takeshi Miyamoto, Sakae Tanaka. Frequency and amplitude analyses of calcium oscillations reveals the harmony regulated by ITAM receptors during RANKL-induced osteoclastogenesis. ECTS 2021. 2021/5/6
- 2) Mika Nakayama, Hiroyuki Okada, Masahide Seki, Yutaka Suzuki, Ung-il Chung, Shinsuke Ohba, Hironori Hojo. Understanding a Mechanism Underlying Bone Repair Process by Combinational Analysis of Lineage Tracing and Single-Cell RNA Sequencing. ISSCR 2021. 2021/6/24.
- 3) Takeshi Fujiyabu, Ung-il Chung, Takamasa Sakai. Systematic and clear discussion about the polymer gel dynamics using well-defined macroscopic parameters of polymer gels. Pacifichem 2021, 2021/12/18.

## 8 学内教育活動

- 1) 未病特論
- 2) フィールド実習 (IA、IB、IIA、IIB)
- 3) ヘルスイノベーション演習基礎
- 4) ヘルスイノベーション演習
- 5) パブリックヘルスリーダーシップ
- 6) 世界の健康課題とイノベーション

## 9 学内各種委員会活動

- 1) 教育研究審議会
- 2) 幹部会議
- 3) 学長補佐会議
- 4) 将来構想検討委員会
- 5) SHI 運営委員会・教授会
- 6) CIP センター運営会議・プロジェクト運営会議

10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

[東京大学での受託]

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究（A）「ヒト骨発生機構の理解に基づく組織再生研究基盤の構築」（研究代表者），2021-2024 年度
- 2) 科学研究費補助金 挑戦的研究（萌芽）「組織リモデリングの理解に基づく骨再生法の開発」（研究代表者），2021-2022 年度

## 昌子 久仁子

### 1 著書

- 1) 医療機器産業論（日本評論社、3月に出版、共著）

### 3 その他の著作

- 1) 寄稿「レギュラトリーサイエンス—SHI 公開講座—」機械振興協会経済研究所 No.30  
2022年1月

### 4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 国立研究開発法人日本医療開発機構
  - ①研究・経営評価評議会委員
  - ②先進的医療機器・システム等技術開発事業プログラムオフィサー（PO）
  - ③課題評価委員会
    - ・Cicle 課題評価委員
    - ・先進的医療機器・システム等技術開発課題評価委員
    - ・官民による若手研究者発掘支援事業課題評価委員
    - ・ウイルス等感染症対策技術開発事業課題評価委員
- 2) （一財）医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団アドバイザー
- 3) （公財）がん集学的治療財団 医療機器委員会委員
- 4) （公財）神戸医療産業都市機構 戦略推進アドバイザー
- 5) （公財）マルホ財・高木皮膚科学振興財団 理事
- 6) 筑波大学 Research Studio メンター

### 5 社会貢献

- 1) 学校法人 東京理科大学理窓会 常務委員（通年）
- 2) 学校法人 東京理科大評議員（通年）
- 3) 在京島根県立浜田高校同窓会 会長（通年）
- 4) （一社）機械振興協会 医療政策研究会 主査（通年）
- 5) （一社）機械振興協会 AIによる産業革新に関する研究会委員（通年）
- 6) メドテックグランプリ KOBE 審査委員 2021年10月

### 6 講演，放送

- 1) 神奈川県立保健福祉大学公開講座「今あらためてレギュラトリーサイエンスを考える」を主催 2021年11月、2022年2月、2022年3月
- 2) 東京大学公共政策大学院で「新規技術としての再生医療」を講演

### 7 学会等での活動

- 1) DIA「医療機器シンポジウム—規制—」プログラム委員 2021年7月
- 2) DIA「医療機器シンポジウム—保険—」プログラム委員、座長 2021年7月
- 3) DIA「HEOR シンポジウム」総括 2020年11月

## 8 学内教育活動

- 1) 授業 ヘルスイノベーション概論
- 2) 授業 医薬品医療機器開発概論
- 3) 授業 組織マネジメント
- 4) 修士論文指導（主任指導1名、副指導2名）
- 5) 課外授業として COINS 見学を企画、実施

## 9 学内各種委員会活動

- 1) 神奈人権倫理委員会 川県立保健福祉大学 人権倫理委員会 委員
- 2) SHI 副研究科長
- 3) SHI 運営委員会
- 4) SHI 人事評価委員会
- 5) SHI 昇任審査委員会
- 6) SHI 新規採用教員評価委員会
- 7) 教員採用審査委員会  
口腔衛生学教員  
生物統計学教員  
医療経済学教員
- 8) SHI 人事検討委員会
- 9) SHI 研究助成審査委員会（委員長代理）
- 10) SHI 修士課程説明会
- 11) SHI 修士書類選考委員会
- 12) SHI 留学生奨学金審査委員会

## 10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

- 1) AMED 委託事業「医療機器開発ガイドラインの今後のありかたに関する調査」委員会 委員、分科会主査

## 14 その他

- 1) 文部科学省第三次補正予算補助事業「SCORE GAP ファンド」における学生申請支援、採択後の実行支援

## 大西 昭郎

### 3 その他の著作

- 1) 2021年3月2日にオンラインにより、東京大学公共政策大学院において、医療経済評価国際シンポジウムが開催された。コロナによる非常事態宣言が続く中でオンラインによる開催となったわけだが、キャンパスのホールでは実現しにくい300名あまりの参加者を集めることになった。また、パネリストもスウェーデン、フランス、台湾、日本からの参加を得るなどオンラインならではのイベントとなった。さらに、今回のテーマは近年保険償還制度にも採用されることとなった医療技術評価（以下ではHTAと呼ぶ。）の手法などが、コロナ禍に直面した各国の対策の立案や評価に、役立てられるのかどうか、またはどのような役割を果たせるのかを議論することであった。子シンポジウムのパネルディスカッションのプロシーディングをまとめたものを書き、コラムとして下記に発表した。

[https://www.musashino-u.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00017674.pdf&n=2020\\_MIGA%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%A0%28%E5%A4%A7%E8%A5%BF%E5%85%88%E7%94%9F2021.03.10%29.pdf](https://www.musashino-u.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00017674.pdf&n=2020_MIGA%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%A0%28%E5%A4%A7%E8%A5%BF%E5%85%88%E7%94%9F2021.03.10%29.pdf)

- 2) 2022年2月に機械振興協会経済研究所のコラムに「パンデミックにおける公衆衛生経済学と感染症予防の価値に関する国際共同研究—新型コロナウイルス感染症の教訓、および、将来の危機に対する科学的根拠に基づく提言—」を下記に掲載した。

<http://www.jspmi.or.jp/system/columns.php?buid=2>

### 4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 厚生労働省 独立行政法人評価審議会 委員（2016年7月～継続）
- 2) 厚生労働省 国立研究開発法人評価審議会 委員（2016年7月～継続）
- 3) 科学技術振興機構 COI ストリーム ビジョンメンバー（ビジョン1担当）（2014年4月～継続）
- 4) 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 評議員（2013年6月～継続）

### 5 社会貢献

- 1) 外部講座として「いま改めてレギュラトリーサイエンスを考える」の企画、実施に参画した。3回シリーズとして実施することとなっており、第一回は2021年11月22日、第二回は2022年2月1日、第三回は3月8日に実施することとなっている。各回とも興味深い講演とパネルディスカッションで構成されている。毎回外部からは70-80名の参加者を得ている。将来的には講義に取り入れていくことを検討している。

## 7 学会等での活動

- 1) 2022年2月「薬事関係法規など」医療機器規制に関する基礎研修講座、医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 レギュラトリーサイエンス エキスパート研修会 専門コース(短期集中型)、東京

## 8 学内教育活動

下記の2つの英語での授業と博士課程の授業を担当。アンケートや学生の意見から貴重なフィードバックを得て反映させながら講義を実施している。

- 1) (修士課程)ヘルスイノベーション概論
- 2) (修士課程)組織マネジメント:今年度からは殿町のCOINSの見学を行うほか、グローバル企業の女性リーダーをゲストスピーカ(GE ジャパンの浅井さん)に迎えている。
- 3) (博士課程)パブリックヘルスリーダーシップ特論1:今年度新設の博士課程の講義にも参加。

## 9 学内各種委員会活動

- 1) 今期昨年度に引き続き、学内の下記5委員会委員または委員長として活動。
- 2) 入試委員会委員委員長
- 3) 教務委員会委員
- 4) 運営委員会委員
- 5) 図書委員会委員
- 6) 内部質保証推進部会委員

## 10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 2021年度12月には兼業先ではあるが、東京大学公共政策大学院にて、日立財団から3年間の研究助成(計5000万円)を受けることになり、本学の渡邊先生にもご参加いただいている。テーマは「公共経済疫学とパンデミック対策の価値に基づく評価についての国際共同研究—COVID19からの将来のパンデミック危機に向けての教訓についての価値に基づく研究」。

## 坂巻 弘之

### 2 学術論文

[学術論文一査読あり]

- 1) 角 明香里, 柴田 賢三, 亀井 浩行, 室谷 健太, 坂巻 弘之, 半谷 眞七子: 在宅医療での薬剤師の業務を評価する在宅薬学管理評価基準票の開発および現状調査. 薬局薬学. 2021. 4 ; 13 巻 2 号 : 126-137
- 2) 坂巻 弘之, 伊藤 央樹, 湯浅 晃: 日本におけるバイオ医薬品市場の将来推計とバイオシミラーによる医療費適正化効果の検討. 薬理と治療. 2021. 5 ; 49 巻 5 号 : 691-700
- 3) 坂巻 弘之, 舟越 亮寛, 有澤 賢二, 森 昌平, 磯部 総一郎, 阿部 雄太, 平子 庸志, 孫 尚孝, 武田 浩二: 保険薬局薬剤師のバイオシミラーに関する意識調査. 薬理と治療. 2021. 10 ; 49 巻 10 号 : 1569-1579
- 4) 坂巻 弘之, 舟越 亮寛, 宮原 克明, 鈴木 裕司, 小林 真由美, 長沼 未加, 武田 浩二: 薬局来局患者のバイオシミラーに関する意識調査. 新薬と臨牀. 2021. 11 ; 70 巻 11 号 : 1354-1361
- 5) 市橋 菜月, 上川畑 昂祐, 柴田 賢三, 室谷 健太, 坂巻 弘之, 亀井 浩行, 半谷 眞七子: 在宅医療における薬剤師の業務負担に寄与する因子 - 決定木分析による検討. 医療薬学. 2021. 12 ; 47 巻 12 号 : 688-700
- 6) 田村 元樹, 服部 真治, 辻 大士, 近藤 克則, 花里 真道, 坂巻 弘之: 高齢者のボランティアグループ参加と個人のうつ傾向との関連: 傾向スコアマッチング法を用いた3年間のJAGES縦断研究. 日本公衆衛生学会誌. 2021. 12 ; 68 巻 12 号 : 899-913

[学術論文一査読なし]

- 1) 坂巻 弘之, 武田 浩二: NDB オープンデータでみるバイオシミラー使用状況. 国際医薬品情報. 2021. 5 ; No. 1178 : 22-26

### 3 その他の著作

[報告書]

- 1) 医療経済研究機構令和2年度自主研究事業「高齢者のボランティアグループ参加とうつ発症リスクに関する調査研究」報告書: 個人レベルおよび地域レベルのボランティアグループ参加がもたらす健康への効果検証: JAGES2013-2016年パネルデータを用いた3年間の縦断研究. 2021年3月
- 2) 自由民主党政務調査会社会保障制度調査会創薬力の強化育成に関するプロジェクトチーム「医薬品産業エコシステムと医薬安全保障の確立～医薬品産業ビジョンへの提言～」2021年5月13日
- 3) 坂巻 弘之: 次世代創薬技術革新のための研究開発基盤整備を目的とした調査研究. 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費(地域医療基盤開発推進研究事業)「次世代創薬技術革新のための研究開発基盤整備を目的とした調査研究」総括研究報告書 2021年5月31日
- 4) 坂巻 弘之: バイオシミラー普及に関するこれまでの取り組みと今後の議論. 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費(地域医療基盤開発推進研究事業)「次世代創薬技術

- 革新のための研究開発基盤整備を目的とした調査研究」分担研究報告書 2021年5月31日
- 5) 坂巻 弘之, 武田 浩二: モダリティ別市場ならびに CMO 動向の分析. 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費(地域医療基盤開発推進研究事業)「次世代創薬技術革新のための研究開発基盤整備を目的とした調査研究」分担研究報告書 2021年5月31日
  - 6) 坂巻 弘之, 豊島 聡, 舟越 亮寛, 宮原 克明, 鈴木 裕司, 小林 真由美, 長沼 未加: 薬局来局患者のバイオシミラーに関する意識調査. 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費(地域医療基盤開発推進研究事業)「次世代創薬技術革新のための研究開発基盤整備を目的とした調査研究」分担研究報告書 2021年5月31日.
  - 7) 坂巻 弘之, 豊島 聡, 舟越 亮寛: 保険薬局薬剤師のバイオシミラーに関する意識調査 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費(地域医療基盤開発推進研究事業)「次世代創薬技術革新のための研究開発基盤整備を目的とした調査研究」分担研究報告書 2021年5月31日
  - 8) 医療経済研究機構令和2・3年度自主研究事業「オーストラリアの医療保障制度に関する調査事業」報告書. 2021年9月

[解説, 座談会, 講演録, その他の著作]

- 1) 三嶽 秋久, 坂巻 弘之 (対談): データ・デジタルで加速する医療・ヘルスケアサービスの進化. 神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科ホームページ研究活動・国際交流. 2021年4月20日  
[https://www.shi.kuhs.ac.jp/research/details\\_01082.html](https://www.shi.kuhs.ac.jp/research/details_01082.html)
- 2) 林 俊宏, 赤名 正臣, 坂巻 弘之: 医薬品のイノベーションと薬価政策の方向(座談会). 社会保険旬報. 2021年04月11日; 2816号: p.6-18
- 3) 坂巻 弘之: 小林化工・日医工事件から薬事行政をどうみるか. 茨城保険医新聞. 2021年5月15日; 第514号: p.2-3
- 4) 坂巻 弘之: ジェネリック医薬品の品質問題の背景にあるもの. 日本医事新報. 2021年6月5日; No. 5067: p.62
- 5) 坂巻 弘之: ジェネリック医薬品の供給不足問題, 安定確保までの期間の明示を. 日本医事新報. 2021年8月7日; No. 5076: p.63
- 6) 坂巻 弘之: 薬価制度, 流通, 安定供給等の構造からみた医薬品産業. 月刊卸薬業. 2021. 8; 45巻8号: p.12-19
- 7) 眞鍋 淳, 坂巻 弘之: 医薬品産業の役割と薬価政策(対談). 社会保険旬報. 2021年09月21日; 2830号: p.6-14
- 8) 坂巻 弘之: 拡大する医薬品の供給不安: ジェネリックの製造キャパシティの拡大が重要. 日本医事新報. 2021年9月18日; No. 5082: p.60
- 9) 坂巻 弘之: 新たな医薬品産業ビジョン—医薬安全保障が産業政策議論の要. 日本医事新報. 2021年10月30日; No. 5088: p.61
- 10) 坂巻 弘之: 医薬品の安定供給について. Monthly IHEP. 2021年11月; No. 313: p.15-22
- 11) 坂巻 弘之: 新たな医薬品産業ビジョン—医薬安全保障のためにより具体的な薬価政策の議論を. 日本医事新報. 2021年11月6日; No. 5089: p.59
- 12) 坂巻 弘之: 2022年度薬価制度改革の残された論点と薬剤費コントロール. 2022年1月. 日本医事新報. 2022年1月29日; No. 5101: p.56-57

- 13) 坂巻 弘之：医薬品の安定供給は2022年に実現できるか。2022年2月。ドラッグマガジン。2022年2月1日；65巻2号28-29
- 14) 坂巻 弘之：バイオシミラーと薬局薬剤師の認知状況について。2022年3月。Vis-à-Vis。95号。2022年3月 4-5

#### 4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 国際医薬経済・アウトカム研究学会 International society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research (ISPOR) 特別会員
- 2) 日本医療・病院管理学会 会員
- 3) 日本医療マネジメント学会 会員
- 4) Drug Information Association (DIA) 会員
- 5) 日本レギュラトリーサイエンス学会 会員
- 6) ヨンセイ大学グローバル健康研究センター 客員研究員
- 7) 一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 客員研究員
- 8) 公益財団法人 医療科学研究所「医療と社会」 編集幹事
- 9) 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ財団 理事
- 10) 公益財団法人慈愛会 評議員
- 11) 単回医療機器再製造推進協議会 特別会員
- 12) 一般社団法人日本ユーザビリティ医療情報化推進協議会 (JUMP) 医療情報利活用推進委員会 委員

#### 5 社会貢献

##### [官公庁委員]

- 1) 厚労省医政局経済課：バイオ医薬品の使用促進に係る普及啓発等事業（委員）
- 2) 厚労省医政局経済課：後発医薬品ロードマップ検証検討事業（委員，座長代理）
- 3) 厚労省保険局医療課：診療報酬改定の結果検証に係る特別調査－後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査（委員）
- 4) 厚労省保険局医療課：かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査（委員）
- 5) 厚生労働省医政局：医療用医薬品の安定確保策に関する関係者会議（委員）

#### 6 講演，放送

- 1) 坂巻 弘之：（座長）令和3年度薬価改定と今後の薬価制度改革に向けた課題。レギュラトリーサイエンス学会WEBシンポジウム。2021年4月5日（東京、web開催）
- 2) 坂巻 弘之：（講演）薬価制度，流通，安定供給等の構造からみた医薬品産業。自由民主党政務調査会社会保障制度調査会創薬力の強化育成に関するプロジェクトチーム有識者ヒアリング。2021年4月27日（東京）
- 3) 坂巻 弘之：（講演）バイオシミラーと医療経済。Biosimilar Summit in Kanagawa2021（サンドスポンサー）。2021年5月13日（神奈川、web配信）
- 4) 坂巻 弘之：（座長・講演）バイオシミラーの Interchangeable（互換性）に関わる最新動向。バイオシミラーの New Paradigm 第3回講演会（セルトリオン・東和薬品スポンサー）。2021年5月27日（神戸、web配信）

- 5) 坂巻 弘之：(講演) バイオシミラーと医療費適正化. バイオ新薬の開発及びバイオシミラーの使用促進を応援する国会議員連盟. 2021年6月10日(東京)
- 6) 坂巻 弘之：(講演) バイオシミラーと医療経済. 鈷路薬剤師会研修会(サノフィスポンサー). 2021年6月18日(鈷路市、web配信)
- 7) 坂巻 弘之：(講演) 薬価制度, 流通, 安定供給等の構造からみた医薬品産業. 一般社団法人日本医薬品卸売連合会ヒルトップセミナー2021講演. 2021年7月8日(東京)
- 8) 坂巻 弘之：(座長・講演) バイオシミラー開発プロセスと臨床使用. バイオシミラーのNew Paradigm 第4回講演会(セルトリオン・東和薬品スポンサー). 2021年8月26日(名古屋、web配信)
- 9) 坂巻 弘之：(講演) 医薬品の安定供給について. 医療経済研究機構第674回医療経済研究会. 2021年9月6日(東京)
- 10) 坂巻 弘之：(講演) 医薬品の安定供給について. 矢野経済研究所 21世紀医療問題分析研究会 2021. 2021年10月18日(東京、web配信)
- 11) 坂巻 弘之：(講演) 医薬品をとりまく最近の動向. 社会保険神奈川特別研究会. 2021年10月25日(横浜)
- 12) 坂巻 弘之：(座長・講演) 医薬安全保障とバイオシミラー. バイオシミラーのNew Paradigm 第5回講演会(セルトリオン・東和薬品スポンサー). 2021年11月25日(横浜、web配信)
- 13) 坂巻 弘之：(講演) バイオシミラーと医療経済. 一般財団法人 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団レギュラトリーサイエンスエキスパート研修会 2021年度バイオ医薬品等に関する品質関連研修講座. 2022年3月1日(東京、web配信)

[マスコミ等への引用]

- 1) (コメント) NHK ニュース (福井) 「医薬品メーカーへの調査強化 都道府県の3分の1が見通し立たず」 2021年6月6日放送  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210606/k10013069941000.html>
- 2) (コメント) NHK ニュースザウルス (福井) 「小林化工 問題発覚から1年」 2021年12月2日放送
- 3) (コメント) NHK ニュース web (全国版) 「薬がない…代わりの薬はどこに 相次ぐ業務停止で広がる波紋」 2021年12月9日  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211209/k10013380561000.html>
- 4) (コメント) NHK ニュースおはよう日本 (全国版) 「各地で医薬品が供給不足に」 2021年12月11日放送
- 5) (コメント) 毎日新聞クローズアップ 「がん治療薬 滞った供給」 毎日新聞 2021年12月6日 p.3 掲載
- 6) (コメント) TBS ニュース 23 (全国版) 「『医療崩壊の始まり』の声・・・薬が足りない! 血圧薬やてんかん薬も」 2021年12月14日放送  
[https://news.tbs.co.jp/newseye/tbs\\_newseye4427243.html](https://news.tbs.co.jp/newseye/tbs_newseye4427243.html)
- 7) (コメント) NHK ニュース web (全国版) 「『薬がないと命が…』 医薬品不足で苦しむ患者・家族は」  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220114/k10013424161000.html>
- 8) (コメント) NHK ラジオニュース 「N ラジセレクト」 2022年1月19日放送

<https://www4.nhk.or.jp/nradi/>

- 9) (コメント) NHK ニュースおはよう日本 (全国版) 2022 年 1 月 21 日放送
- 10) (コメント) NHK ニュース「シブ 5 時」 2022 年 1 月 25 日放送
- 11) (コメント) 毎日放送 2022 年 2 月 1 日
- 12) (コメント) サンケイ新聞 「薬局に薬がない」後発薬で欠品、出し惜しみ 2022 年 2 月 2 日  
<https://www.sankei.com/article/20220202-TDKMNB5C5VIT7OTPAM7YYC2DHY/>
- 13) (コメント) 読売新聞 経済安保-見えない脅威(3) 医薬品、深い海外依存 2022 年 2 月 19 日
- 14) (コメント) テレビ西日本福岡ニュースファイル CUBE 2022 年 2 月 26 日放送
- 15) (コメント) 日本経済新聞 後発薬、長引く供給不安 解消へ足並みそろわず 2022 年 3 月 6 日
- 16) (コメント) 毎日新聞 ジェネリック 3000 品目超が供給停滞 業界が抱える特殊事情. 2022 年 3 月 25 日 <https://mainichi.jp/articles/20220324/k00/00m/040/359000c>

## 7 学会等での活動

- 1) 田村 元樹, 高杉 友, 中村 美詠子, 柳 奈津代, 坂巻 弘之, 中込 敦士, 佐藤 豪竜, 近藤 克則, 尾島 俊之: かかりつけ薬局と移動手段の関連: JAGES2019 横断研究. 第 32 回日本疫学会学術総会. 2022 年 1 月 26~28 日 (東京、web 開催)
- 2) 田村 元樹, 高杉 友, 中村 美詠子, 柳 奈津代, 坂巻 弘之, 中込 敦士, 佐藤 豪竜, 近藤 克則, 尾島俊之: かかりつけ薬局を持つ高齢者の特徴に関する研究: JAGES2019 横断データを用いた分析. 第 80 回日本公衆衛生学会. 2021 年 12 月 21~23 日 (東京、web 開催、オンデマンド配信)

## 8 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科: 医療技術評価 (前期・後半)
- 2) ヘルスイノベーション研究科: 医薬品・医療機器開発論 (後期・前半)
- 3) ヘルスイノベーション研究科: ヘルスイノベーション演習基礎
- 4) ヘルスイノベーション研究科: ヘルスイノベーション演習
- 5) 修士論文指導
  - ① Cost-effectiveness Analysis of Hepatitis C Virus Testing in Kanagawa Prefecture.
  - ② Study for contribution towards estimating the friction cost in the valuation of health technologies in Japan.

## 9 学内各種委員会活動

- 1) 研究委員会 委員

## 14 その他

[特別研究員受け入れ]

- 1) 千葉大学予防医学センター/浜松医科大学健康社会医学講座 (研究テーマ: 医療・介護政策に関する調査研究)

- 2) 株式会社矢野経済研究所（研究テーマ：医薬品流通に関する研究）
- 3) 東和薬品株式会社（研究テーマ：保険医療データに関する研究）
- 4) セルトリオン・ヘルスケア・ジャパン株式会社（研究テーマ：バイオ医薬品・バイオシミラーに関する研究）

## [共同研究]

- 1) 医療経済研究機構令和2・3年度「オーストラリアの医療保障制度に関する調査事業」研究アドバイザー（報告書として公表）
- 2) 名城大学薬学部病院薬学教室（半谷真七子准教授）「在宅医療での薬剤師の業務を評価する在宅薬学管理評価基準票の開発」共同研究（論文2件公表）
- 3) 東邦大学薬学部医療薬学教育センター薬事法学研究室（平賀秀明助教）「患者宅への医薬品配送時の問題点と患者が許容できる配送時間に関する調査」共同研究
- 4) 日本コミュニティファーマシー協会（吉岡ゆうこ会長）「箱出し調剤導入に関する調査研究」共同研究（杉浦記念財団「杉浦地域医療振興助成」申請）

## [他大学出講による教育活動]

- 1) 帝京平成大学薬学部（非常勤講師）：「社会保障制度論」。（2021年4月9日～6月4日各月・金曜1,2限開講）。
- 2) 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科（非常勤講師）：薬剤経済学「費用データ」（2021年5月6日web開講）
- 3) 慶應義塾大学薬学部（非常勤講師）：医薬品情報学「医療経済評価」（2021年6月24日web開講）
- 4) 昭和大学大学院薬学研究科（非常勤講師）：薬学的医療マネジメント学「医療技術評価」（2021年6月30日,7月14日,7月28日web開講）
- 5) 岐阜薬科大学大学院薬学研究科（非常勤講師）：グローバルレギュラトリーサイエンス「医療経済評価」（2021年11月2日開講）
- 6) 東京都立大学大学院健康福祉学研究科 非常勤講師：保健医療管理学「医療費と疾病管理」（2021年12月17日web開講）

## 島岡 未来子

### 1 著書

- 1) 島岡未来子、共著者 20 名 (2022 年)『非営用語辞典』(公社) 非営利法人研究会編、全国公益法人協会.

### 2 学術論文

- 1) Jin, F., Shimaoka M., Kito, T., Sayama, H., Chao, C.-H., & Tsai, C.-Y. (2022). Learning effectiveness of virtual entrepreneurship programs: A multilevel evaluation framework. Academy of Management Conference, 82, TLC Division. 受理

### 3 その他の著作

- 1) 島岡未来子「社会人の学び直し DX 化～大学でのリカレント教育の積極化とオンライン化～」、大学教育と情報、2021 年度 No. 2 (2021 年 9 月号) .

### 4 学会、協会、公的団体の委員など

- 1) 環境省、アドバイザー委員。「地域循環共生圏プラットフォーム構築事業」は地域循環共生圏の構築に向け、自律分散型社会を目指している。本事業のアドバイザー委員として、全国アドバイザー委員会及び作業部会の参加、現地調査への参加、「環境整備」に対する助言・指導、事務局への相談対応を行う。
- 2) 国分寺市、国分寺市協働事業審査会委員。国分寺市が募集する協働事業の審査員として年 4 回の審査会に出席。
- 3) 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会。2040 かながわ福祉ビジョン策定委員、団体が、令和 4 年 3 月までにまとめる「2040 かながわ福祉ビジョン」の策定委員として年 4 回の会議に出席
- 4) 研究・イノベーション学会、編集委員会委員。本編集委員会は、研究・イノベーション学会の学会誌を管轄する委員会。年間 4 回程度開催される業務委員会に出席、審議。
- 5) 一般社団法人経営研究所人事部門責任者フォーラム、コーディネータ。同研究所は昭和 21 年に学者と企業が共同で近代経営のあり方を研究すべく設立された会員制の非営利団体。フォーラムは月 1 回開催し、企業、大学、コンサルタントなどを、毎回ゲストスピーカーとして招へい。
- 6) 早稲田大学パブリックサービス研究所、研究員
- 7) 早稲田大学ソーシャル&ヒューマン・キャピタル研究所、研究員
- 8) 早稲田大学グローバル科学知融合研究所、研究員
- 9) 日本ソーシャルイノベーション学会、理事、企画委員
- 10) 文部科学省、スタートアップ・エコシステム、アントレプレナーシップ教育ワーキング委員
- 11) スタートアップ・エコシステム、東京コンソーシアム ディープ・エコシステム対象企業選定委員
- 12) イノベーション教育学会、幹事

## 5 社会貢献

- 1) 環境省、「地域循環共生圏プラットフォーム構築事業」アドバイザー委員、本事業は、地域循環共生圏の構築に向け、自律分散型社会を目指している。本事業のアドバイザー委員として、全国アドバイザー委員会及び作業部会の参加、現地調査への参加、「環境整備」に対する助言・指導、事務局への相談対応を行っている。
- 2) 国分寺市、国分寺市協働事業審査会委員、国分寺市が募集する協働事業の審査員として年4回の審査会に出席。
- 3) 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会、2040 かながわ福祉ビジョン策定委員、団体が、令和4年3月までにまとめる「2040 かながわ福祉ビジョン」の策定委員として年4回の会議に出席
- 4) スタートアップ・エコシステム、東京コンソーシアム ディープ・エコシステム対象企業の選定に審査委員として参加 (9月22日)

## 6 講演, 放送

- 1) 第19回 TSUKUBA CONNECT(主催茨城県ベンチャーカフェ東京、共催 T-UNITE) にパネリストとして登壇。(5月21日)
- 2) SCORE 大学推進型(拠点都市環境整備型)『T-UNITE(Tokyo United Network for Innovation with Technology and Entrepreneurs)』キックオフシンポジウム、パネルディスカッション、モデレータ (5月22日)
- 3) CIC ピッチナイト Venture Café Tokyo パネルディスカッション、モデレータ (7月1日)
- 4) SCORE 大学推進型(拠点都市環境整備型)『T-UNITE(Tokyo United Network for Innovation with Technology and Entrepreneurs)』関西コンソーシアムとの共同イベントでの講演 (7月9日)
- 5) SCORE 大学推進型(拠点都市環境整備型)『T-UNITE(Tokyo United Network for Innovation with Technology and Entrepreneurs)』東海コンソーシアムとの共同イベントでの講演 (7月16日)
- 6) 『科学技術振興機構 社会還元加速プログラム(SCORE) 大学推進型(拠点都市環境整備型)『Tokyo United Network for Innovation with Technology and Entrepreneurs (T-UNITE)』中間報告会、”Boosting Japan’s Startup Ecosystem”(内閣府・世界銀行によるスタートアップ・エコシステムの調査分析)セッション進行。(10月16日)
- 7) CAUA シンポジウム 2021「大学×企業 産学連携教育の取り組み~変わる働き方、変わる大学教育~」における講演、パネラー (12月23日)
- 8) 環境省近畿環境パートナーシップオフィス(きんき環境館)、近畿「地域循環共生圏」中間支援研究会準備会合「地域循環共生圏(ローカル SDGs)創造に向けた協働~資金調達に着目して」のテーマで講演 (12月23日)
- 9) JST「研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム(STAR) スタートアップ・エコシステム形成支援事業」Greater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE)プロジェクト キックオフ、パネルディスカッションモデレータ (1月6日)
- 10) 大阪大学 共創機構 イノベーション戦略部門に対し「デザイン思考のアントレプレナーシップ教育への導入」をテーマに講演 (1月18日)

- 11) T-UNITE 関連イベント「看護・ケア現場からのイノベーションの創出—地域リソースを活かして—」司会・進行（2月9日）
- 12) T-UNITE 最終報告会、“Measuring the Effectiveness of Entrepreneurship Education Program: Cases of Japan and Sweden” 基調講演、パネルディスカッションモデレータ（3月1日）
- 13) “Symposium on Women in Entrepreneurship Education”, パネルディスカッション” Entrepreneurship Education for Women at Universities: Japan and Beyond” モデレータ（3月8日）
- 14) SHIBUYA QWS イベント『大学ではなにができる？：あなたの未来のきっかけを作る2時間』コメンテータ

## 7 学会等での活動

- 1) 日本ソーシャルイノベーション学会 第3回年次大会（2021）、セッション座長（11月28日）
- 2) 日本ソーシャルイノベーション学会 企画委員としてユース部門のワークショップ企画
- 3) イノベーション教育学会第9回年次大会、パネリスト、（2月24日）（予定）

## 8 学内教育活動

- 1) 授業「Entrepreneurship I」の実施
- 2) 授業「Entrepreneurship II」の実施
- 3) 博士課程「パブリックヘルスリーダーシップ」の実施
- 4) 修士論文指導（主査1名、副査2名）
- 5) 実践教育センターとの共催「看護・ヘルスケア現場のニーズ発掘ワークショップ」の企画と実施（第1回：12月1日、第2回：1月8日）
- 6) 実践教育センター、認定看護管理者教育課程講師、科目名：質管理論Ⅲ、単元：経営と質管理、内容：ガバナンスとアカウンタビリティ。4コマ（10月29日）
- 7) 神奈川県立保健福祉大学、「対人援助特論」（博士課程後期必修）担当講師、3コマ（6月19日）

## 9 学内各種委員会活動

- 1) SHI 入試委員会 委員（副委員長）（通年）
- 2) SHI 企画委員会 委員（通年）
- 3) SHI 運営委員会 委員（通年）
- 4) SHI 研究助成金 審査委員（通年）
- 5) SHI 教員採用審査員（通年）
- 6) SHI 昇任人事審査員（通年）
- 7) SHI 人事小委員会委員（通年）
- 8) 神奈川県立保健福祉大学 自己評価専門部会 委員（通年）
- 9) CIP 副センター長
- 10) 企画委員として、SHI 教職員ワークショップ（ブレインストーミング）の企画・実施（2回開催）

- 11) 神奈川県立保健福祉大学のFD、デザイン思考をテーマに実施予定（3月16日）
- 10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託
  - 1) 「アントレプレナーシップ教育におけるチームのアウトプットに影響を与える要素分析」、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤C）、2020年度-2022年度。研究代表者（実施中）
  - 2) 「チーム科学の研究」、セコム科学技術振興財団令和3年度：特定領域研究助成、2021年度、研究分担者（採択）
  - 3) JST「研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム（START）スタートアップ・エコシステム形成支援事業」（GTIE）への神奈川県立保健福祉大学の共同機関申請支援、2021年度～2025年度。（採択）
- 14 その他
  - 1) 文部科学省第三次補正予算補助事業「SCORE 大学推進型拠点都市環境整備型」（T-UNITE）における教員研修の企画実施（バブソン大学、スタンフォード大学 d.school らとの共同開発。5月から3月まで11か月実施）。SHI 教員/研究員4名の参加推進とトレーニング
  - 2) 文部科学省第三次補正予算補助事業「SCORE 大学推進型拠点都市環境整備型」（T-UNITE）のGAP ファンドプロジェクトにおけるSHI 学生等2件の申請支援、学生プロジェクトは採択、採択後の実行支援を行っている。
  - 3) 神奈川県立保健福祉大学 全学FD・SD「デザイン思考に関するワークショップ」講師（3月16日）
  - 4) ヘルスイノベーション研究科におけるFDの実施（企画委員）SHI・CIP 教職員FD・SDワークショップ、9月25日、2月26日（土曜日）テーマ「SHIにおける研究のこれから」「SHIにおける大学運営（10年後の神奈川県立保健福祉大学でのSHIの立ち位置）」

## 徳野 慎一

### 2 学術論文

- 1) Performance Evaluation of a Voice-Based Depression Assessment System Considering the Number and Type of Input Utterances. Higuchi M, Sonota N, Nakamura M, Miyazaki K, Shinohara S, Omiya Y, Takano T, Mitsuyoshi S, Tokuno S. *Sensors*, 22(1), 67. <https://doi.org/10.3390/s22010067>
- 2) Evaluation of emotional arousal level and depression severity using voice-derived sound pressure change acceleration. Shinohara S, Toda H, Nakamura M, Omiya Y, Higuchi M, Takano T, Saito T, Tanichi M, Boku S, Mitsuyoshi S, So M, Yoshino A, Tokuno S. *Sci Rep* 11, 13615 (2021). <https://doi.org/10.1038/s41598-021-92982-7>
- 3) 音声からみたストレスの指標, 徳野慎一, *CLINICAL NEUROSCIENCE* vol.39 no.6 714 - 717 (2021.6)
- 4) Depressive Mood Assessment Method Based on Emotion Level Derived from Voice: Comparison of Voice Features of Individuals with Major Depressive Disorders and Healthy Controls. Shinohara S, Nakamura M, Omiya Y, Higuchi M, Hagiwara N, Mitsuyoshi S, Toda H, Saito T, Tanichi M, Yoshino A, Tokuno S. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 2021, 18(10), 5435; <https://doi.org/10.3390/ijerph18105435>
- 5) Computational identification of variables in neonatal vocalizations predictive for postpubertal social behaviors in a mouse model of 16p11.2 deletion. Nakamura M, Ye K, Silva BM, Yamauchi T, Hoepfner DJ, Fayyazuddin A, Kang G, Yuda AE, Nagashima M, Enomoto S, Hiramoto T, Sharp R, Kaneko I, Tajinda K, Adachi M, Mihara T, Tokuno S, Geyer AM, Broin OP, Matsumoto M, Hiroi N, *Mol Psychiatry* (2021). <https://doi.org/10.1038/s41380-021-01089-y>

### 4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 日本災害医学会 評議員
- 2) WHO Clinical Consortium on Healthy Ageing 専門委員

### 5 社会貢献

- 1) 神奈川県コロナ対策本部搬送調整班支援
- 2) 神奈川県コロナワクチン接種事業支援
- 3) 日本 MIMMS 委員会 インストラクター

### 6 講演, 放送

- 1) 世界保健機関西太平洋事務局 (World Health Organization, Western Pacific Regional Office; *WPRO*) Webiner 2021.12.10
- 2) スタンフォード大学・神奈川県オンラインシンポジウム 「未病を切り口に健康とテクノロジーの今後を考える」 2021.11.17
- 3) 第 30 回バイオメディカル研究会 「音声バイオマーカーの開発の現状と課題」 2021.4.27

## 7 学会等での活動

- 1) Pilot Study to Detect Mild Cognitive Impairment During Long Vowel Utterance, Omiya Y, Takano T, Endo K, Oya M, Tano K, Fukuda Y, Matsumoto M, Takano S, Tokuno S, The 16th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases (AD/PD 2022) (Virtual), 2022.3.15-20
- 2) Simple Voice Biomarker During Spontaneous Speech for Detecting Mild Cognitive Impairment. Takano T, Omiya Y, Endo K, Oya M, Tano K, Fukuda Y, Matsumoto M, Takano S, Tokuno S, The 16th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases (AD/PD 2022) (Virtual), 2022.3.15-20
- 3) Study on Detection of Dementia by Dual Tasking. Higuchi M, Nakamura M, Omiya Y, Tokuno S, The 16th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases (AD/PD 2022) (Virtual), 2022.3.15-20
- 4) Detection of Mild Cognitive Impairment Using Difference of Voice Features Between Conditions. Nakamura M, Higuchi M, Omiya Y, Takano T, Shinohara T, Mitsuyoshi S, Tokuno S, The 16th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases (AD/PD 2022) (Virtual), 2022.3.15-20
- 5) Web 会議システムにおける音声メンタルヘルス評価手法の有効性. 其田 憲明, 樋口 政和, 中村 光晃, 大宮 康宏, 篠原 修二, 高野 毅, 高山 英次, 光吉 俊二, 徳野 慎一, HCG シンポジウム 2021 (オンライン), 2021.11.10
- 6) 音声による軽度認知症の検出, 樋口 政和, 中村 光晃, 岡崎 俊実, 竹村 潤, 高野 毅, 大宮 康宏, 篠原 修二, 光吉 俊二, 徳野 慎一, 第 60 回日本生体医工学会大会 (オンライン), 2021.06.15-17
- 7) 音声特徴量による Quality of Life 指標推定手法に関する検討, 中村光晃, 樋口政和, 飯高世子, 大宮康宏, 高野毅, 篠原修二, 光吉俊二, 吉村典子, 徳野慎一, 第 60 回日本生体医工学会大会 (オンライン), 2021.06.15-17
- 8) スマートフォンを用いた音声によるストレス計測の妥当性の検討, 大宮康宏, 高野毅, 中村光晃, 樋口政和, 篠原修二, 光吉俊二, 徳野慎一, 第 60 回日本生体医工学会大会 (オンライン), 2021.06.15-17
- 9) COVID-19 の流行が音声によるストレス計測に与えた影響の分析, 大宮康宏, 高野毅, 遠藤弘司, 中村光晃, 樋口政和, 篠原修二, 光吉俊二, 徳野慎一, 第 94 回日本産業衛生学会(オンデマンド), 2021.05.24

## 8 学内教育活動

- 1) 環境保健学
- 2) 産業保健学
- 3) 産業保健学演習
- 4) 健康危機管理学
- 5) パブリックヘルスリーダーシップ
- 6) マヒドン大学ワークショップ

9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 企画・広報委員会
- 2) ヘルスイノベーション研究科 研究委員会

## 中原 慎二

### 2 学術論文

- 1) Asami M, Nakahara S, Miyake Y, et al. Serum D-dimer level as a predictor of neurological functional prognosis in cases of head injuries caused by road traffic accidents. *BMC Emergency Medicine* 2022;22(1):51. doi: 10.1186/s12873-022-00613-9. 原著
- 2) Nakahara, S., Inada, H., Ichikawa, M., & Tomio, J. Japan's slow response to improve access to inpatient care for COVID-19 patients. *Frontiers in Public Health*, 2270. 査読付 Perspective in press. IF3.7
- 3) Minato Disaster Medical Care System Study Group. Bottom-Up Approach to Establish Coordination Mechanisms for Disaster Preparedness Among Largely Private Health-Care Providers in Central Tokyo. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 2021:1-9. 査読付 コンセプトペーパー, 責任著者 IF1.385
- 4) Pochaisan O, Pattanarattanamolee R, Pongputtha W, Chadbunchachai W, Nakahara S. Development of an emergency medical services system in Thailand: the roles of universal health coverage and the national lead agency. *Emerg Med Australa*. 2021;33(4):756-758. 査読付 Perspective IF2.151 引用 4 件
- 5) Vu DH, Hoang BH, Do NS, Do GP, Dao XD, Nguyen HH, Luu QT, Nguyen LH, Nakahara S. Why the bystanders did not perform CPR for OHCA patients on scene: A multi-center study in Hanoi. *Prehosp Disaster Med*. In press 査読付 原著 IF2.04
- 6) 加納 誠也、三宅 康史、中原 慎二、神田 潤、宋 侑子、坂本 哲也. 重症熱中症の予後予測因子としてのトロンビン-アンチトロンビンⅢ. *日本救急医学会関東地方会雑誌 (2021) 42(2):10-3*. doi: 10.24697/jaamkanto.42.2\_10. 査読付 原著
- 7) Bui Hai HOANG, Thi Hue MAI, Thai Son DINH, Thanh NGUYEN, Trung Anh DANG, Van Cuong LE, Quoc Chinh LUONG, Shinji NAKAHARA. Unmet need for emergency medical services in Hanoi, Vietnam. *JMA Journal (2021) 4(3):277-80*. doi: 10.31662/jmaj.2020-0110. 査読付 Opinion 引用 2 件
- 8) Jun Kanda, Shinji Nakahara, Shunsuke Nakamura, et al. Association between active cooling and low in-hospital case fatality among heat illness patients: a multi-center observational study in Japan. *PLoS One (2021) 16(11):e0259441*. Epub 2021/11/18. doi: 10.1371/journal.pone.0259441. PubMed PMID: 34788312. 査読付 原著 IF3.24
- 9) Inada H, Tomio J, Nakahara S, Ichikawa M. The effect of annual road safety publicity and enforcement campaign on road fatalities in Japan: a time series study from 1949 to 2019. *Journal of Epidemiology and Community Health (2021)*. Epub 2021/07/02. doi: 10.1136/jech-2021-216532. PubMed PMID: 34193570. 原著 査読付 IF3.71

#### 4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) JRC 蘇生ガイドライン 2020 作成委員会 日本救急医学会委員
- 2) 社会保障審議会統計分科会専門委員
- 3) 日本外傷学会トラウマレジストリ検討委員会委員

#### 7 学会等での活動

- 1) ICD-11 の日本語翻訳（社会保障審議会統計分科会専門委員として、日本救急医学会の用語委員会と共同で、救急医学会担当部分の翻訳とこれまでの翻訳の確認を実施）

#### 8 学内教育活動

- 1) 調査法演習
- 2) インジュリーコントロール講義
- 3) ヘルスコミュニケーションに関するワークショップ企画
- 4) マヒドン大学との合同オンラインワークショップ企画（2021年8月）
- 5) コンケン大学との共同カンファレンス企画（2021年8月）

#### 9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科倫理委員会
- 2) ヘルスイノベーション研究科国際委員会（委員長）
- 3) 全学地域貢献研究センター国際協働部門委員

#### 10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

- 1) 科学研究費補助金「開発途上国の救急医療システム構築モデルの提案—地域保健医療枠組みの活用（19K09403）」：研究代表者
- 2) 厚生労働科学研究費補助金「市民による AED 等の一次救命処置のさらなる普及と検証体制構築の促進および二次救命処置の適切な普及に向けた研究（20FA1014）」：研究分担者
- 3) 科学研究費補助金「超高齢社会におけるモビリティ確保と健康・安全・社会的包摂に関する学際研究（18K10081）」：研究分担者
- 4) 科学研究費補助金「ASEAN 諸国におけるモビリティ・マネジメントの実行可能性に関する実証分析（18H01553）」：研究分担者
- 5) 科学研究費補助金「看護職主導による 2 型糖尿病未治療改善・治療中断予防プログラムの開発（19K10951）」：研究分担者

#### 14 その他

- 1) 留学生に対する奨学金の広報：ハノイ医科大学、ベトナム国立栄養研、ベトナム国立小児病院、タイ保健省、タイ・コンケン大学、タイ・コンケン病院、タイ・シリントン病院、ラオス国立保健医療大学、ラオス保健省、ラオス国立栄養研、カンボジア国立保健医療大学、KHANA（カンボジア NGO）、シンガポール国立大学、コロンボ大学、コロンボ国立病院、全インド医科大学など

## 成松 宏人

### 2 学術論文

- 1) Enomoto N, Nakamura S, Kanda S, Endo H, Yamada E, Kobayashi S, Kido M, Inoue R, Shimakura J, Narimatsu H. Efficacy of Additional Intervention to the Specific Health Guidance in Japan: The Takahata GENKI Project. Risk Manag Healthc Policy. 2021;14:3935-43. Epub 20210921. pubdate 2021 Sep IF 3.20 □
- 2) Kanouchi K, Narimatsu H, Shirata T, Morikane K. Diagnostic analysis of lupus anticoagulant using clot waveform analysis in activated partial thromboplastin time prolonged cases: A retrospective analysis. Health Sci Rep. 2021;4(2):e258. Epub 20210312. pubdate 2021 Jun IF 1.56 □
- 3) Kobayashi S, Koizume S, Takahashi T, Ueno M, Oishi R, Nagashima S, Sano Y, Fukushima T, Tezuka S, Morimoto M, Nakamura S, Narimatsu H, Ruf W, Miyagi Y. Tissue factor and its procoagulant activity on cancer-associated thromboembolism in pancreatic cancer. Cancer Sci. 2021;112(11):4679-91. Epub 20210830. pubdate 2021 Nov IF 6.72
- 4) Okamura Y, Boku N, Ghaneh P, Greenhalf W, Yasukawa S, Narimatsu H, Fukutomi A, Konishi M, Morinaga S, Toyama H, Maeda A, Shimizu Y, Nakamori S, Sata N, Yamakita K, Takahashi A, Takayama W, Yamaguchi R, Tomikawa M, Yanagisawa A, Neoptolemos JP, Uesaka K. Concordance of human equilibrative nucleoside transporter-1 expressions between murine (10D7G2) and rabbit (SP120) antibodies and association with clinical outcomes of adjuvant chemotherapy for pancreatic cancer: A collaborative study from the JASPAC 01 trial. Cancer Rep (Hoboken). 2021:e1507. Epub 20210729. pubdate 2021 Jul 29 IF 0.77
- 5) Suganuma N, Kawachi K, Yamashita T, Yamanaka T, Sugawara Y, Matsubara Y, Yamazaki H, Kohagura K, Toda S, Okamoto S, Yoshida T, Rino Y, Masuda M, Narimatsu H, Fujita H, Yoshioka E, Yokose T, Furuta K, Miyagi Y. Quality Control of Breast Cancer Surgery Samples: Introducing Time Stamp Checking. Biopreserv Biobank. 2021;19(5):369-75. Epub 20210429. pubdate 2021 Oct IF 2.30
- 6) Suzuki H, Narimatsu H, Nakane M, Sadahiro M, Kawamae K. Perioperative presepsin as a potential early predictor for postoperative infectious complications in cardiac surgery. Anaesthesiology Intensive Therapy. 2021;53(3):215-22. pubdate 2021 IF 0.84
- 7) Takumoto Y, Sasahara Y, Narimatsu H, Akazawa M. Comparative Outcomes of First-Line Chemotherapy for Metastatic Pancreatic Cancer Among the Regimens Used in Japan: A Systematic Review and Network Meta-analysis. JAMA Netw Open. 2022;5(1):e2145515. Epub 20220104. pubdate 2022 Jan 4 IF 8.48
- 8) Tanaka K, Nakamura S, Narimatsu H. Nutritional Approach to Cancer Cachexia: A Proposal for Dietitians. Nutrients. 2022;14(2). Epub 20220114. pubdate 2022 Jan 14 IF 5.72 ○

### 4 学会，協会，公的団体の委員など

- 1) 神奈川県生活習慣病対策委員会：委員、成松宏人
- 2) 神奈川県生活習慣病対策委員会 がん・循環器病対策部会：委員、成松宏人
- 3) 神奈川 ME-BYO リビングラボ：専門委員、成松宏人
- 4) Expert Member, WHO Clinical Consortium on Healthy Ageing、成松宏人

- 5) 公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター「化学療法を実施する切除不能膵癌患者を対象とした Electronic Patient Reported Outcome (ePRO) を用いた QOL 調査研究」調査検討委員、成松宏人
- 6) Guest Editor of Special Issue "Role of Diet and Nutrition in Cancer: Prevention, Treatment and Survivorship" nutrients、成松宏人
- 7) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構：ゲノムデータ基盤事業 コントロール群準備会議委員、成松宏人

## 5 社会貢献

- 1) 山形大学医学部：「個別化医療」、非常勤講師、成松宏人
- 2) 帝京大学公衆衛生大学院：「医療管理学」、非常勤講師、成松宏人
- 3) 横浜市立大学：「がんの疫学」非常勤講師、成松宏人
- 4) 慶應義塾大学 看護医療学部：「がん総論」非常勤講師、成松宏人
- 5) 非営利活動法人 地域健康プラン：理事長、成松宏人

## 6 講演, 放送

- 1) 成松宏人「ゲノムから始まるヘルスイノベーションー自分で健康をデザインする社会を創るー」第7回 Tokai Hematological malignancy Club 4/2021 Web 開催
- 2) 成松宏人、神田 悟、渡邊 要、中村 翔、渡邊 亮 神奈川県地域がん登録データをがん対策に活かす 2021 年度 神奈川県立保健福祉大学研究発表会 8/2021 Web 開催
- 3) 成松宏人「未病プロジェクトにつながるコホート研究 ~ヘルスイノベーションの創出を目指して~」 2021 年:第5回 HOT Forum (Health Outcomes & Technology Forum) -医療・ヘルスケア分野におけるアウトカム評価研究会- 10/2021 Web 開催

## 7 学会等での活動

### 学会発表

- 1) Y Takumoto, H Narimatsu, Y Sasahara, T Murata, T Shiroiwa, M Akazawa. Health State Utility Values for Metastatic Pancreatic Cancer in Japan, Based on the Vignette-Based Approach Virtual ISPOR Europe 2021 web 開催 11/30-3/12/2021
- 2) E Haneda, A Sato, N Suganuma, Y Sebata, S Okamoto, S Toda, K Kohagura, Y Matsubara, Y Sugawara, T Yamanaka, T Yamashita, S Shimizu, H Narimatsu, BRCA2021 web 開催 5/2021
- 3) Yoshinobu Saito, Yuko Oguma, Haruhiko Imamura, Takayuki Tajima, Sho Nakamura, Kaname Watanabe, Hiroto Narimatsu, 8th International Society for Physical Activity and Health Virtual Congress (ISPAH 2021). Abstract 318: Physical activity, social capital and health status among older adults: a structural equation modeling analysis.
- 4) Sho Nakamura, Hiroto Narimatsu. World Congress on Epidemiology 2021. Australia (WEB) .9/2021. Data envelopment analysis for predicting pre-diabetes for primary disease prevention.
- 5) 佐藤 杏, 羽田恵梨, 成松宏人: 遺伝性腫瘍の診療における AI 活用の可能性と今後の展望. 第27回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, WEB 要望演題, 6/2021. 最優秀演題賞を受賞

- 6) 羽田恵梨, 佐藤 杏, 谷島和美, 緒方文子, 山内桂子, 瀬畑善子, 山中隆司, 清水 哲, 成松宏人: ひとり親の遺伝性腫瘍のがん患者と子どもへの対応. 第45回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, WEBポスター, 7/2021.
  - 7) 高橋鴻志, 中村 翔, 渡邊 要, 成松宏人, 阪口昌彦. 第80回日本公衆衛生学会総会. 地方自治体の医療資源・財政状況・検診政策と、がん検診受診率との関係について. 東京. 12/2021.
- 8 学内教育活動
- 1) 疫学研究
  - 2) 疫学演習
  - 3) 臨床研究
  - 4) ヘルスイノベーション演習基礎
  - 5) ヘルスイノベーション演習
- 9 学内各種委員会活動
- 1) SHI 入試委員会 委員
  - 2) SHI 研究委員会 委員
  - 3) イノベーション政策研究センター研究員
- 10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託
- 1) 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)  
データ包括分析法を活用した個別化予防医療の開発(2017-2022年度)  
代表: 成松宏人
  - 2) 科学研究費助成事業(科研費) 新学術領域研究(学術研究支援基盤形成)  
「コホート・生体試料支援プラットフォーム」(2016-2021年度)  
分担: 成松宏人
  - 3) 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)  
進行腫瘍に対するがん化学療法の費用対効果に関する検討(赤沢学)(2019-2024年度)  
代表: 赤沢学 分担: 成松宏人
  - 4) 中外製薬 がん予防・疫学および骨・関節領域における研究活動: 成松宏人 (神奈川県立がんセンター)
  - 5) ゲノムコホートデータを活用したイノベーション基盤の形成 ゲノムコホートデータを活用したイノベーション基盤の形成 文部科学省 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム 神奈川発「ヘルスケア・ニューフロンティア」先導プロジェクト 地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所: (代表) 成松宏人、中村 翔、齋藤義信
  - 6) ゲノムコホートを活用した COVID-19 に関する市中モニタリングと対策研究基盤知見などの創出、令和2年度先進異分野融合プロジェクト研究立案・推進事業 地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所: 成松宏人、中村 翔、齋藤義信
  - 7) 未病指標の精緻化等に関する実証事業 神奈川県: 成松宏人、中村 翔、齋藤義信
  - 8) 拡張知能(AI)を活用した効率的な遺伝性腫瘍診療システムの開発と実証 (公財)木原記念横浜生命科学振興財団 LIP. 横浜トライアル助成金: (代表) 成松宏人、羽田恵梨、佐藤杏 (神奈川県立がんセンター)

- 9) ゲノムコホートを活用した COVID-19 に関する知見の創出 地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所 先進異分野融合プロジェクト研究立案・推進事業：(代表) 成松宏人、中村 翔、齋藤義信
  
- 11 学内研究助成金の受託
  - 1) 未病対策へ反映を目指した AI を活用した効果的介入プログラムの開発 神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 ヘルスイノベーション推進研究費：(代表) 成松宏人、中村 翔、齋藤義信
  
- 13 特許など
  - 1) 1 件出願 (発明者として、出願人：地方独立行政法人神奈川県立病院機構)
  
- 14 その他  
民間企業等との受託研究/共同研究
  - 1) Zene(株)  
データ包絡法分析の予防医療への応用：成松宏人、中村 翔
  - 2) 横浜市・横浜市医師会がん検診精度管理事業：成松宏人、中村 翔
  - 3) ライザップ株式会社、ジェノプラン株式会社  
ゲノムデータの健康作りへの応用：成松宏人、中村翔、齋藤義信
  - 4) エーテンラボ (株)  
デジタルピアサポートの応用研究：成松宏人、中村翔、齋藤義信、渡邊要
  - 5) 湘南ロボケアセンター  
ヘルスケアロボットを活用した介護予防プログラムの開発研究：成松宏人、中村翔、齋藤義信
  - 6) 株式会社メタジェン  
新型コロナウイルス感染に関する神奈川県内モニタリング：成松宏人、中村翔、齋藤義信

クロスアポイント制度を使って在籍

神奈川県立がんセンター 臨床研究所 がん予防・情報学部 部長

神奈川県立がんセンター 遺伝診療科 部長

メディア掲載

- 1) 読売新聞 記事「高島町 保健指導で成果」11/2021
- 2) 山形新聞 県内ニュース 社会欄  
記事「積極指導でメタボ改善 かつて“県内ワースト”高島町が独自プログラム」10/2021
- 3) 日本経済新聞 記事「神奈川県開発の『未病指標』を将来予測 県が実証」10/2021

プレスリリース

- 1) 糖尿病の遺伝学的リスクスコアを含む多層リスク評価が行動変容に及ぼす影響に関する共同研究の開始 2021. 7. 12

- 2) AI を活用した遺伝性乳がん卵巣がん症候群の拾い上げシステムを開発 6/2021 (神奈川県立がんセンター)
- 3) 肥満の遺伝学的リスクスコアと食事・運動介入プログラムの効果に関する4者間共同研究の開始 5/2021
- 4) AI 活用に関する活動レポート公開 11/2021  
株式会社AIT <https://www.ait-solution.jp/casestudy/ai-kcch-report/> (神奈川県立がんセンター)
- 5) デジタルピアサポートアプリ「みんなチャレ」と神奈川県みらい未病コホート研究を組み合わせた行動変容効果を検証する臨床研究を開始 2/2022

## 八代 嘉美

### 2 学術論文

- 1) Comparison of the 2021 International Society for Stem Cell Research (ISSCR) Guidelines for “Laboratory-based Human Stem Cell Research, Embryo Research, and Related Research Activities” and the corresponding Japanese Regulations, *Regenerative Therapy*, in submit (査読付)
- 2) Effective Communication: A Comparative Analysis of Attitudes toward Stem Cell Research and Regenerative Medicine between the Public and the Scientific Community, *Regenerative Therapy*, in submit (査読付)
- 3) 希少難治性疾患と再生医療の ELSI (倫理的法的社会的課題)～ISSCR ガイドラインを手がかりに, *再生医療*. in press, 2022 (査読付)
- 4) 国際幹細胞学会 (ISSCR) 2021 年版ガイドラインにおける実験室で行うヒト幹細胞、胚関連研究の取扱い—日本の関連指針との比較検討, *CBEL Report*, in press 2022 (査読付)

### 4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 文部科学省 特定胚等研究専門委員会 委員
- 2) 日本再生医療学会 理事長補佐、
- 3) 同 生命倫理・利益相反委員会委員長、
- 4) 同 広報委員会副委員長
- 5) 同 ダイバーシティ委員会委員
- 6) 同 代議員
- 7) 日本ゲノム編集学会 倫理・規制委員
- 8) 慶應義塾大学 特定認定再生医療等委員会 委員
- 9) 蒲郡市民病院 特定認定再生医療等委員会 委員
- 10) 東京都健康長寿医療センター 特定臨床研究委員会 委員

### 5 社会貢献

- 1) 日本再生医療学会 患者・市民参画セミナー「患者・社会と考える再生医療」企画・講演 (2021年8月22日)
- 2) 日本再生医療学会 中高生向けイベントセミナー「再生医療は社会に向けてどのような発信をすればよいのかを考える」企画・講演 (2021年11月28日)
- 3) 日本再生医療学会 中高生向けイベントセミナー「再生医療は社会に向けてどのような発信をすればよいのかを考える」企画・講演 (2022年3月21日)

### 6 講演, 放送

- 1) 第2回アステラスオープンフォーラム『新たな治療選択肢を患者さんに～細胞医療が患者さんに届くまで～』(2022年3月4日)

- 2) 大阪大学 SEEDS2021 分野横断型ワークショップ講演 (2021年10月2日)

## 7 学会等での活動

### 口頭発表

- 1) Considering The Gap Between Scientists and The General Public's Perception of Regenerative Medicine, ISSCR/JSRM 2021 Tokyo International Symposium, 2021年10月28日、オンライン開催
- 2) 日本再生医療学会が倫理的・法的・社会的課題において果たしてきた役割. 第21回日本再生医療学会総会 2022年3月19日
- 3) 再生医療ナショナルコンソーシアムの社学連携活動. 第21回日本再生医療学会総会 2022年3月19日

### ポスター発表

- 4) Study of the development of ECO-SYSTEM to accelerate the spread of Regenerative Medicine. ISSCR 2021 Annual meeting virtual, 2021年6月21日～26日、オンライン開催

## 8 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科「先端医療における責任ある研究・イノベーション(RRI) I/II」(1年後期前半、後半)
- 2) 再生医療特論 (1年後期前半)
- 3) ヘルステクノロジー I/II (1年後期後半、2年前期後半)

## 9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 研究倫理委員会 委員長
- 2) 広報委員会 委員

## 10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) セコム科学技術振興財団「効率的な再生医療の提供に向けた政策課題解決のための研究」(研究代表者)
- 2) 日本学術振興会「RRIの新展開のための理論的・実践的研究—教育・評価・政治性に注目して」(研究分担者)
- 3) 日本学術振興会「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)への包括的実践」(研究分担者)
- 4) 厚生労働省委託事業「認定再生医療等委員会における審査の質向上にむけた研究」(研究分担者)
- 5) AMED 再生医療実現拠点ネットワークプログラム「再生医療研究とその成果の応用に関する倫理的課題の解決支援」(研究分担者)

## 12 受賞

- 1) 日本再生医療学会 The Johnson & Johnson Innovation Award

14 その他  
新聞掲載

## YOO BYUNG KWANG (ユウ ヘイキョウ)

## 1 著書

- 1) 兪炳匡 (2021). 「日本再生のための「プラン B」 医療経済学による所得倍増計画」 (集英社新書), 集英社, 304 頁. (ISBN-13 : 978-4087211610)
- 2) 兪炳匡 (2021). 「「改革」のための医療経済学」, 北東亜州出版, 276 頁. (ISBN-13 : 978-4991195006)
- 3) 兪炳匡 (2021). 「「プラン B」をもっと知るための 10 通の手紙—個人と社会の多様性を豊かにするために」, 北東亜州出版, 128 頁. (ISBN-13 : 978-4991195013)
- 4) 兪炳匡 (2021). 「残された少ない時間で「プラン B」を発動できるか」(第 2 部提言 8) 寺崎仁 (編) 『医療白書 2021 年度版 日本のコロナ対応「混乱の本質」—真の制度改革・医療強靱化を実現せよ!—』, 日本医療企画, 64-70 頁. (ISBN-13 : 978-4867290781)
- 5) 兪炳匡 (2022). 「個人の選択肢を増やす「プラン B」とは何か」(3. パラダイム転換へ). 内田樹(編著). 他の執筆者は, 斎藤幸平, 平田オリザ, 仲野徹, 三砂ちづる 他. 『撤退論 歴史のパラダイム転換にむけて』, 晶文社. 229-246 頁. (ISBN-13 : 978-4794973078)

## 2 学術論文

- 1) Yellowlees PM, Parish MB, Gonzalez AD, Chan SR, Hilty DM, Yoo BK, Leigh P, McCarron RM, Scher LM, Sciolla AF, Shore J, Xiong G, Soltero KM, Fisher A, Fine JR, Bannister J, Iosif AM (2021) "Clinical Outcomes of Asynchronous v Synchronous Telepsychiatry in Primary Care: A Randomized Controlled Trial," *Journal of Medical Internet Research*. 23(7):e24047. doi: 10.2196/24047. (PMID: 33993104) (Impact factor: 5.03)
- 2) 兪炳匡 (2022) 「特集企画: 『ポスト・コロナ時代の公衆衛生医療』“医療・教育・芸術が融合した予防医療が地方経済を救う”」, 保健の科学, 64 巻 3 月号.
- 3) Yoo BK, Yang NH, Hoffman K, Sasaki T, Haynes SC, Mouzoon J, Marcin JP (2022) "Economic Evaluation of Telemedicine Consultations to Reduce Unnecessary Neonatal Care Transfers," *Journal of Pediatrics*. S0022-3476(21)01225-7. doi: 10.1016/j.jpeds.2021.11.076. Epub ahead of print. (PMID: 35074308) (Impact factor: 4.41)

## 3 その他の著作

- 1) (対談記事掲載) 兪炳匡, 内田樹 (2021). 「アメリカと競合しない分野を目指せ! 「医療」「教育」「芸術」, 日本が生き残るための再生論」, 週プレ NEWS, HYPERLINK "<https://wpb.shueisha.co.jp/news/society/2021/04/18/113493/>" "<https://wpb.shueisha.co.jp/news/society/2021/04/18/113493/>" (2021 年 4 月 18 日)
- 2) (単著) 兪炳匡 (2021). 「ボアールの演劇を予防医療教育に一過去を上書きし, 自己肯定感を高め, 現代を変える<インタビュー>」, ひょうご部落解放, 180 号 (2021 年 秋), p61-70.

## 4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 神奈川県庁: 新型コロナウイルス・パンデミック関連政策のアドバイザー (2020 年 4 月)

～現在)

- 2) 東京都世田谷区役所：新型コロナウイルス・パンデミック関連政策のアドバイザー。特に、医療従事者や無症状もしくは軽症者などを対象とした社会的 PCR 検査の実施に関する政策立案のための助言・指導。(2020年8月～現在)
- 3) 在日本(東京)米国大使館：新型コロナウイルス・パンデミックに関連する独自のデータ分析と対策案を定期的に提出(2020年9月～現在)

## 5 社会貢献

- 1) 神奈川県大規模接種会場におけるワクチン接種業務への協力(2021年8月8日, 9月19日, 9月26日の計3回)

## 6 講演, 放送

- 1) 4月16日の参議院本会議にて, 参議院議員の川田龍平氏(立憲民主党; 旧民進党 ネクスト厚生労働大臣(2016年))の質疑の中で, 拙著『日本再生のための「プランB」』(集英社新書2021年3月発刊)の提言を取り上げて頂く。  
<https://www.youtube.com/watch?v=u6gHiakHMSw> (2021年4月16日)
  - ・ 拙著の言及箇所は22分05秒-22分45秒
  - ・ この質問に関わる, 予防医療に関する話題(質問)の全体は, 20分32秒-22分45秒
  - ・ 22分45秒以降は, 統合医療の話題に移る
- 2) Presented 「日本のコロナ・パンデミック対策の問題点」, 令和ルネサンス会議(国会議員, 地方議会議員の研究会)2021年5月14日
- 3) Presented 「①新型コロナウイルス感染症対策について, ②日本再生のための「プランB」ー医療経済学による所得倍増計画について」, 立憲民主党新型コロナウイルス対策本部, 2021年5月19日
- 4) Presented 『日本再生のための「プランB」ー医療経済学による所得倍増計画について』, 令和ルネサンス会議(国会議員, 地方議会議員の研究会)2021年5月21日
- 5) 愈炳匡(2021). 「日本再生のための「プランB」を考える」(三木義一氏との対談), 庶民大学TV Japan, <https://www.youtube.com/watch?v=yZF5rX52Aja> (2021年6月16日公開, 2022年1月28日更新; 56分)
- 6) Presented 「コロナ・パンデミック対策の一環としての下水PCR検査」, 令和ルネサンス会議(国会議員, 地方議会議員の研究会)2021年6月18日
- 7) Presented 「『プランB』下の北東アジア経済共同体」, 令和ルネサンス会議(国会議員, 地方議会議員の研究会)2021年6月18日
- 8) 愈炳匡, 宮台真司, 迫田朋子(2021). 「コロナ後の日本再生は欧米モデルからの脱却がカギを握る」, マル激トーク・オン・ダイヤモンド(第1055回), Video News社, <https://www.videonews.com/marugeki-talk/1055> (2021年06月26日公開)
  - ・ Yahoo ニュースにも転載  
<https://news.yahoo.co.jp/articles/7610391bd3011c67ecfd15430aa21a5de16ae6af>
- 9) Presented 「コロナ危機下のプランB」東京青年医会 早朝勉強会(名誉会長は自民党衆議院議員 安藤 高夫)2021年7月2日

- 10) Presented 「ポストコロナ時代の医療政策について」立憲民主党大阪府総支部連合会・勉強会, 2021年7月21日
- 11) 兪炳匡 (2021). 「たかがマスクされどマスク」(三木義一氏との対談による「新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク・ガイドライン改訂に関する提言」の紹介), 庶民大学TV Japan,  
<https://www.youtube.com/watch?v=pC7dzXB49Iw> (2021年8月4日公開)
- 12) 兪炳匡, 黒岩神奈川県知事 (2021). (記者発表)「データ統合・分析環境整備にともなう新型コロナウイルス感染症に係る予測モデルの開発について」(神奈川県黒岩知事との記者発表(知事の定例記者会見の一環))
- ・ テレビ神奈川の動画(約2分)にて放送, [https://www.tvk-kaihoku.jp/news\\_wall/post-8584.php](https://www.tvk-kaihoku.jp/news_wall/post-8584.php) (2021年8月18日)
  - ・ (新聞記事)日経, 神奈川, 読売, 東京, 毎日の各紙に掲載
    - <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC1865P0Y1A810C2000000/>
    - <https://www.kanaloco.jp/news/government/article-637183.html>
  - ・ 記者発表資料(県庁ホームページリンク)と記事全文は以下の通り
    - <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r7219619.html>
    - <http://www.pref.kanagawa.jp/documents/78475/image.pdf>
  - ・ ライブ配信された記者会見の動画(以下にリンク)の冒頭19分が,「コロナ感染予測モデルについて」. この定例会見前に, 1時間以上にわたり「事前記者レク」を行い, 記者からの質問に回答.  
<https://www.youtube.com/watch?v=Nlx0BVjCON4> (2021年8月18日)
- 13) 兪炳匡, 山岡淳一郎 (2021). 『感染爆発「プランB」で抑え込め!』, 山岡淳一郎のニッポンの崖っぷち, <https://www.youtube.com/watch?v=lDbSxJK8VFI> (2021年8月22日公開; 50分)
- 14) 兪炳匡, 黒岩神奈川県知事 (2021). (記者発表)「新型コロナウイルス感染症の予測に係る「主要モデル」の開発について～科学的根拠によるデータエビデンスに基づく施策実現のために」(神奈川県黒岩知事との記者発表,  
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r0088537.html> (2021年9月10日))
- ・ NHK, 日経, 朝日, 東京新聞等広く報道された. 私の研究グループが開発した感染予測モデルでは, 例えば, 前週に比べ今週の人流がX%減る(ワクチン接種率がY%増える)と, Z日後に入院者数がW人減ると予測可能.
    - <https://www3.nhk.or.jp/shutoken-news/20210910/1000070067.html>
    - <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO75657610Q1A910C2L82000/>
    - <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC1865P018082021000000/>
    - <https://www.tokyo-np.co.jp/article/130243>
- 15) 兪炳匡, 山岡淳一郎 (2021). 「いまこそ科学的コロナ対策を!」, 山岡淳一郎のニッポンの崖っぷち, <https://www.youtube.com/watch?v=jNiLSNg50fY> (2021年10月8日公開; 54分)
- 16) 兪炳匡, 山岡淳一郎 (2021). デモクラシー・タイムズ新シリーズ番組「兪炳匡のどん底ニッポンを立て直す」(全7回にレギュラー出演): 拙著『日本再生のための「プランB」』(集英社新書) 詳解

- ・ シリーズ 1 回目「沈む賃金・貯蓄ゼロ」  
<https://www.youtube.com/watch?v=oTF6Eqz0jGI> (2021 年 10 月 29 日公開; 31 分)
- ・ シリーズ 2 回目「製造業より医療介護～雇用と富を生み出す産業」  
[https://www.youtube.com/watch?v=-0\\_Nud2X-AU](https://www.youtube.com/watch?v=-0_Nud2X-AU) (2021 年 11 月 5 日公開; 36 分)
- ・ シリーズ 3 回目「魅力を失う日本～そして誰もいなくなる」  
<https://www.youtube.com/watch?v=Hc1jWAZ1eFE> (2021 年 11 月 14 日公開; 35 分)
- ・ シリーズ 4 回目「悪夢の「民営化」～『働く 99%のための成長戦略』」  
<https://www.youtube.com/watch?v=1RyeYf497II> (2021 年 11 月 21 日公開; 40 分)
- ・ シリーズ 5 回目「地方へ！生き残るのは医療・教育・公的部門～『働く 99%のための所得倍増計画』」  
<https://www.youtube.com/watch?v=DEY3B1Hj1UM> (2021 年 11 月 30 日公開; 40 分)
- ・ シリーズ 6 回目「巨視的な「日本再生」プラン～道路より教育医療が効果がある」  
<https://www.youtube.com/watch?v=I1S9USXa2RY> (2021 年 12 月 5 日公開; 45 分)
- ・ シリーズ 7 回目（最終回特別編・法政大学水野和夫教授との対談）「水野和夫× 兪炳匡 資本主義の終焉～働く 99%豊かな生活のために」  
<https://www.youtube.com/watch?v=I-Yxa9ERbrg> (2021 年 12 月 24 日収録・2022 年 1 月 4 日公開; 58 分)

17) Presented “How COVID-19 policies differ among the US, Japan and Kangawa,” at The Stanford-Kanagawa Online Symposium on November 18, 2021.

18) Presented 「日本のパンデミック対策の課題」東京大学大学院医学系研究科，公共健康医学専攻（科目名：健康医療政策学），2021 年 11 月 29 日

## 7 学会等での活動

- 1) 兪炳匡 (2021). 「教育講演 3 EL03 最近の医療経済学の動向—日本の諸問題に貢献できるか?」, 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 2021 年 12 月 21 日, 東京.

## 8 学内教育活動

- 1) Critical Assessment in Health Policy, SHI formal course, 90 min x 15 classes, during Spring Semester of the 2021-2022 academic year, (Sole Instructor)
- 2) Critical Assessment in Health Economics, SHI formal course, 90 min x 15 classes, during Fall Semester of the 2021-2022 academic year, (Sole Instructor)
- 3) Health Education Theater, SHI formal course, 90 min x 15 classes, during Fall Semester of the 2021-2022 academic year, (Sole Instructor)
- 4) Presented “National Covid-19 response and management in Japan,” at A virtual field study on health system and innovation during COVID-19 in Japan and Thailand on August 20, 2021.



官の参加がある。私が、神奈川県立保健福祉大学の予算を用いて開始した、神奈川県内の下水疫学調査についての理解の促進と、同県内での調査対象の拡大等を目的とする。本研究会が取り組む先進的な内容は、内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室によるヒアリングの対象にもなった。

- 4) 「演劇手法を用いる健康教育プログラムのファシリテーター養成講座」(全4日間で計9時間)を全国の保健師・管理栄養士など(スタッフ4名と参加者22名)を対象に2022年2月に実施した。現在、この講座に用いたマニュアルを作成中であり、2023年3月までに単行本として出版予定。

## 吉田 穂波

### 1 著書

- 1) 吉田 穂波、滝本 秀美. 母子保健 : In 「社会・環境と健康 2022-2023」第6版 南江堂 東京 2021
- 2) Honami Yoshida. Lessons Learned from the Great East Japan Earthquake. Birth Outcomes in a Catastrophe in a Highly Aged Society. Springer. 2021. ISBN 978-981-10-4391-8
- 3) 吉田 穂波. 4章 災害亜急性期に必要な対応. 6. 妊産婦・乳幼児向け福祉避難所の必要性、設置する際に配慮すべき点. In: 「実践 小児・周産期医療現場の災害対策テキスト」. メディカ出版, 大阪, 2021, pp201-212.
- 4) 吉田 穂波. 4章 平時からの備え. 11. 災害対策に関する一般の方々への啓発、学習の場づくり、必要な患者教育. In: 「実践 小児・周産期医療現場の災害対策テキスト」. メディカ出版, 大阪, 2021, pp292-301.
- 5) 吉田 穂波. 頼るスキルの磨き方 KADOKAWA 東京 2022

### 2 学術論文

- 1) Yoshida H, Kato N, Yokoyama T. Early full-term birth is an important factor for the increase in the proportion of low-birth-weight infants between 1980 and 2015 in Japan. *Journal of the National Institute of Public Health*. 71 (1) : 77-86 (2022)
- 2) Kato N, Sauvaget C, Yoshida H, Yokoyama T, Yoshiike N. Factors affecting birth weight decline in recent Japan based on birth certificates. *BMC Pregnancy Childbirth*. 21:337 (2021). <https://doi.org/10.1186/s12884-021-03819-0>
- 3) 上岡洋晴, 和田安代, 逸見治, 島田美樹子, 新保みさ, 吉田穂波. 日本の妊活者を対象としたいわゆる健康食品による健康被害やトラブル - 情報データベースに基づく二次研究 -. *Journal Therapeutic Research*. 42;8:559-571(2021)

#### 総説論文 (査読あり)

- 1) 吉田 穂波. SOS と言えるカー「受援力」を高めることから始まるレジリエンス. *Mother and Child Wellbeing Around the World*. 90:2-7. 2021
- 2) 吉田 穂波. 特集 胎児期からはじまる子育て支援 : (5)産後の女性の心と身体. *チャイルドヘルス*. 24(3): 175-178. 2021
- 3) 加藤則子, 磯島豪, 盛一享徳, 森崎菜穂, 吉田穂波, 松浦賢長, 横山徹爾. 新生児の生理的体重減少と生後 1 か月までの体重増加に影響を及ぼす要因. *小児保健研究* 80(suppl). 139-139, 2021.
- 4) 吉田穂波. 新型コロナウイルス感染症の重症化リスクの高い人々への対策 (母子保健). *神奈川県公衆衛生学会誌*. 66:42-47. 2021
- 5) 吉田 穂波. 新型コロナウイルス感染症対策をふまえた災害時の母子保健支援. 新型コロナウイルス関連情報特設サイト. 新型コロナウイルス関連 e-ラーニング教材・参考資料. 日本公衆衛生学会. <https://www.jsph.jp/covid/files/838AE7.pdf>

## 総説論文（査読なし）

- 1) 吉田穂波.産後の女性の心と身体. チャイルドヘルス 24(3): 175-178, 2021.
- 2) 小野眞史, 吉田穂波, 竹内千恵子. メディカルコーチングの基本と活用. 【連載第 2 回】対患者・医療職間のコミュニケーションを円滑に! メディカルコーチングの基本と活用 外来で活用できるコーチングスキル. 継続看護時代を担う体質強化 外来看護. 25(3) :126 – 133. 2021
- 3) 小野眞史, 吉田穂波, 竹内千恵子. メディカルコーチングの基本と活用. 【連載第 3 回】対患者・医療職間のコミュニケーションを円滑に! メディカルコーチングの基本と活用 外来看護でのコミュニケーション② 対患者コーチング:適応と開始時の注意 継続看護時代の外来看護. 25(4) :131 – 137. 2021
- 4) 小野眞史, 吉田穂波, 竹内千恵子. 対患者コーチング:安全に使えるスキルと注意すべきスキル. 【連載第 4 回】対患者・医療職間のコミュニケーションを円滑に! メディカルコーチングの基本と活用 外来看護でのコミュニケーション③ 対患者コーチング:安全に使えるスキルと注意すべきスキル 継続看護時代を担う体質強化 外来看護. 26(1) :126 – 133. 2021
- 5) 吉田穂波. 受援力のススメ. 家族と健康. 803:3. 2021
- 6) 吉田穂波. 医師の仕事に広がり可能性を. 総合診療. 31(5): 661-667. 2021
- 7) 吉田穂波. 11. 母子の防災意識を高めることで平時からの子育てネットワークを強化するには?～「あかちゃんとママを守る防災ノート」を活用して, 簡単に確実な啓発を～In: 研修ノート No.107 「災害時における周産期医療」. 日本産婦人科医会発行. 2021.
- 8) 吉田 穂波. 風疹・麻疹・水痘・ムンプスの抗体検査とワクチン接種. 微研ジャーナル. 43(3):3-16. 2021
- 9) 吉田 穂波. 新型コロナウイルス感染症の影響による乳幼児健診率及びワクチン接種の現状. 微研ジャーナル. 44(1):3-16. 2021
- 10) 吉田穂波. ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染症と HPV 検査及び HPV ワクチン接種の現状. 微研ジャーナル. 44(2):3-12. 2021
- 11) 吉田穂波. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行による女性の健康への影響. 微研ジャーナル. 44(3):12-23. 2021
- 12) 吉田穂波,小野眞史, 竹内千恵子. メディカルコーチングの基本と活用. 【連載第 7 回 (最終回)】対患者・医療職間のコミュニケーションを円滑に! メディカルコーチングの基本と活用 看護職の様々な場面に生きるコーチング 外来看護. In Press (2022)
- 13) 吉田穂波. 「だれひとり取り残されない」災害支援—東日本大震災後のリプロダクティブヘルス—. In: 特集 公衆衛生・医療の新たな世界観. 保健の科学. 64(3):165-170 (2022)

## 4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 神奈川県公衆衛生協会 企画・学術部会委員
- 2) 日本公衆衛生学会 広報 e ラーニング委員会委員
- 3) 日本周産期メンタルヘルス学会 評議員
- 4) 平塚保健福祉事務所 母子保健委員会アドバイザー
- 5) 神奈川県政策局政策局 いのち・未来戦略本部室アドバイザー
- 6) 神奈川県政策局政策局 いのち・未来戦略本部室最先端医療産業グループ 神奈川 ME-

## BYO リビングラボ専門委員

- 7) 厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部事務局参与
- 8) 厚生労働省医政局医道審議会専門委員
- 9) 日本家族計画協会 研究倫理審査委員・倫理委員
- 10) 神奈川県新型コロナウイルス感染症対策推進本部搬送調整班医師

## 5 社会貢献

## ① 神奈川県政への貢献

- 1) 神奈川県と花王の協定による神奈川県女性における未病改善の調査ならびに啓発事業  
担当部署：神奈川県 政策局 いのち・未来戦略本部室 未病産業グループ
- 2) 神奈川県と花王の協定による神奈川県女性における新型コロナウイルスの健康影響に関する調査事業  
担当部署：神奈川県 政策局 いのち・未来戦略本部室 未病産業グループ
- 3) 神奈川県リビングラボ事業審査委員  
担当部署：神奈川県 政策局 いのち・未来戦略本部室 最先端医療産業グループ
- 4) 神奈川県未病アンバサダー事業アドバイザー  
担当部署：神奈川県 政策局 いのち・未来戦略本部室 未病産業グループ
- 5) 神奈川県新型コロナウイルス対策本部参与  
担当部署：神奈川県 健康医療局医療危機対策本部室 災害医療グループ
- 6) 神奈川県新型コロナウイルス搬送調整班委員  
担当部署：神奈川県 健康医療局医療危機対策本部室 災害医療グループ
- 7) 神奈川県公衆衛生協会 企画・学部部会委員  
担当部署：神奈川県健康医療局 健康増進課
- 8) 神奈川県新型コロナウイルス予測モデル開発事業  
担当部署：神奈川県健康医療局 健康増進課
- 9) 神奈川県 ME-BYO ブランド事業審査委員  
担当部署：神奈川県 政策局 いのち・未来戦略本部室 最先端医療産業グループ

## ② 県民への啓発・教育

- 1) 神奈川県平塚保健福祉事務所 妊娠期から産後までの切れ目ない支援ならびに児童虐待防止事業アドバイザー
- 2) 神奈川県看護協会 助産師職能委員会災害研修事業
- 3) 神奈川県と花王の協定による女子高校生未病事業アイデアワークショップ講師 6月19日  
担当部署：神奈川県 政策局 いのち・未来戦略本部室 未病産業グループ
- 4) 神奈川県新型コロナウイルス LINE による感染予防啓発  
担当部署：神奈川県 健康医療局医療危機対策本部室 災害医療グループ
- 5) 横浜市男女共同参画推進協議会アドバイザー  
担当組織：公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会
- 6) 神奈川県リビングラボ事業 倫理審査委員  
担当組織：特定非営利活動法人 地域健康プラン

## 6 講演, 放送

- 1) 「第4回災害時の妊産婦支援セミナー」講師 一般社団法人日本家族計画協会 2021/1/27, 3/13
- 2) 「乳幼児をもつご家庭が複合災害に遭ったらーその時に役立つ受援力とは？」講師 徳島大学大学院医歯薬学研究部 2021/2/2
- 3) 「健康危機管理学」講師 帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 2021/2/16
- 4) 「リプロダクティブヘルス&ライツと受援力を身につける」講師 香蘭女学校×立教大学 RSL センター2021/2/16
- 5) 「未病シンポジウム(大手町)」講師 (株)ファムメディコ 2021/2/17
- 6) 「災害時の妊産婦・母子支援の実態」講師 昭和大学 助産学専攻科 2021/2/27
- 7) 「令和2年度厚生労働科学特別研究事業報告」講師 日本家族計画協会 2021/4/11
- 8) 令和3年度「からだと性に関する相談の振り返りの会」講師 横浜市男女参画推進協会
- 9) 立教大学「グローバルリスクガバナンス」2021年度 兼任講師、2021年4月～7月
- 10) 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業 地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業)主催者 2021/5/1,
- 11) 災害時母子支援フォーラム」講師 青森県看護協会 2021/6/4
- 12) 「抱え込まない子育て「受援力」のススメ」つながるフェス実行委員会 2021/6/5
- 13) 「2021年度夏期セミナー」講師 日本医療経営学会事務局 2021/6/19
- 14) 「Zoom 講演会 女性医師の生き方」講師 広島大学 COCO 2021/6/24
- 15) 「宮城県災害医療従事者研修会」講師 災害医療 ACT 研究所 2021/6/26
- 16) 「令和3年度ひとり親家庭関係相談員研修」講師 仙台市男女共同参画財団 2021/7/9
- 17) 「第一回受援力発揮セミナー」講師 日本家族計画協会 2021/7/14
- 18) 「第5回災害時の妊産婦支援セミナー」講師 日本家族計画協会 2021/7/21, 9/18
- 19) 「Public Health.実践講座」講師 千葉大学 2021/7/29
- 20) 「受援力ってなんだろう?社会的つながりを生み出すヒント」講師 浦和在宅医療支援相談センター 2021/9/2
- 21) 「赤ちゃんに優しい病院(BFH)認定15周年記念講演会」講師 津軽保健生活協同健生病院 2021/10/16
- 22) 「第3回 医療・介護者向け研修会」講師 吉川松伏在宅医療サポートセンター 2021/10/22
- 23) 「新型コロナウイルス感染症とうまく付き合う～女性支援における課題や健康知識」講師 男女共同参画センター横浜 2021/10/27
- 24) 「助産師キャリアアップ研修会」講師 大分県福祉保健部医療政策課 2021/10/31
- 25) 「災害時における母子支援の取組」講師 青森県看護協会 2021/11/5
- 26) 「医師とワークライフバランス」講師 茨城県医師会男女共同参画フォーラム 2021/11/21
- 27) 「病気から子どもを守る!～そばにいる私たちができること～」講師 保育博事務局 メッセフランクフルト ジャパン株式会社 2021/12/1
- 28) 「コロナ禍で母子を守る、あなたのための受援力」講師 新潟県看護協会東西支部助産師職能係 2021/12/5

- 29) 「新しい医師の生き方 5.0」講師 国立大学法人 島根大学医学部 2021/12/16
- 30) 「親子防災講座」講師 石川県能美市役所 2021/12/19
- 31) 『6人子育て中の女性医師が語る「受援力」』オンライン勉強会講師 豊島区議会議員 永野裕子 2021/12/22
- 32) 「災害時、子どもと家族に我慢を強くない避難生活のために-避難所運営ゲーム「HUG」を体験しよう!」講師 鳥取県看護協会助産師職能委員 2022/1/15
- 33) 「少子化社会対策大綱の推進に関する検討会」におけるヒアリング 講師 内閣府 2022/2/7
- 34) 「時間がないから、なんでもできる!~持続可能なワーク&ライフのすすめ~」野村グループ ダイバーシティ&インクルージョン (D&I)WIN ネットワーク 2022/2/18
- 35) 「リプロダクティブヘルス&ライツと受援力を身につける」講師 [RSL センター]香蘭女学校 2022/2/25
- 36) 「2022年2月 スキルアップ研修」講師 NPO法人日本防災士会 2022/2/26
- 37) 「災害時の母子保健について」講師 宮城県子どもセンター 2022/2/28
- 38) 「働く女性のウェルネス研究報告」演者 ファムメディコ/三菱地所合同企画 2022/3/8
- 39) 「子どもの健康とコロナ禍について」講師 テンダーラビングケアサービス 2022/3/16

## 7 学会等での活動

- 1) 吉田穂波、中原慎二、片桐暁、Pia Pongsapitaksanti、谷口綾子、タイー日本をつなぐ交通事故予防~オンラインワークショップの試み、第16回日本モビリティ・マネジメント会議 (alpha-prm.jp).ポスター発表. 2021年8月、福岡
- 2) 川村 太一、吉田穂波、山田佳乃.新型コロナウイルス感染症の第三波における神奈川県の入院患者の特性について. 第80回日本公衆衛生学会総会. 2021年12月21日、東京
- 3) 村松司、武智浩之、西田敏秀、早川貴裕、藤田利枝、水谷亜以子、吉田穂波、山本信太郎、宗陽子、宮園将哉、廣瀬浩美、山本長史. 公衆衛生医師の確保と育成に関する実践活動報告:ICT 広報媒体の活用. 第80回日本公衆衛生学会総会. ポスター発表(P-15-12) 2021年12月21日、東京
- 4) 吉田穂波. 行政医師が持つべき専門性・スペシャリティを考える. 第80回日本公衆衛生学会学術集会シンポジウム2 (12/21) 2021年12月21日、東京
- 5) 吉田 穂波. 災害時小児周産期リエゾンの取組について. 第27回日本集団災害学会総会. (オンライン) 2022年3月3日
- 6) 吉田 穂波. 災害時における母子支援・周産期医療ニーズ予測ならびに母子向け福祉避難所マッピング、パネルディスカッション16「守る 災害医療:避難所における健康管理」. 第27回日本集団災害学会総会. (オンライン) 2022年3月4日
- 7) 吉田 穂波. 災害時の周産期医療ニーズ予測と周産期医療提供体制について. 第27回日本集団災害学会総会. (オンライン) 2022年3月4日

## 8 学内教育活動

(学科)

- 1) 人間総合学科「疾病と治療II」婦人科疾患講義 2コマ2回

- 2) 看護学科「声明を宿し産む仕組みの障害」講義 2コマ
- 3) 栄養学科「公衆衛生学Ⅰ」講義（12月10日） 2コマ  
（修士課程）
- 4) ヘルスコミュニケーション（ヘルスイノベーション研究科，科目責任者）
- 5) 健康危機管理（ヘルスイノベーション研究科，副科目責任者）
- 6) 未病の社会システム「Childhood Health」（ヘルスイノベーション研究科）
- 7) ヘルスイノベーション演習基礎（ヘルスイノベーション研究科）
- 8) ヘルスイノベーション演習（ヘルスイノベーション研究科）
- 9) 修士課程の研究指導：指導教員担当学生4名
- 10) フィールド実習「丸の内女子プロジェクトデータ分析研究」（ヘルスイノベーション研究科）
- 11) ヘルスイノベーション特別研究（ヘルスイノベーション研究科）
- 12) 博士課程の研究指導：副指導教員担当学生1名

## 9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科企画・広報委員会委員（通年）
- 2) ヘルスイノベーション研究科教務委員会委員（通年）
- 3) ヘルスイノベーション教授委員会・運営委員会（通年）
- 4) CIPプロジェクト委員会（通年）

## 10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

### ①外部研究費の受け入れ

- 1) **【科学研究費助成事業 研究活動スタート支援】**  
期間：2020年度～2021年度（文部科学省）  
研究課題名：新型コロナウイルス対策に配慮した災害時の避難母子支援システム構築に向けた課題抽出 3,000千円  
研究代表者又は研究分担者の別：研究代表者
- 2) **【科学研究費助成事業基盤研究（C）】**  
期間：2020年度～2022年度  
研究課題名：大規模災害後の災害弱者の孤立化防止の為の避難フェーズ別効果的介入モデルの開発（研究代表者：崎坂香屋子） 4,420千円  
研究代表者又は研究分担者の別：研究分担者
- 3) **【厚生労働行政推進調査事業費補助金：地域保健総合推進事業】**  
期間：2020年度～2022年度  
研究課題名：公衆衛生医師の確保と育成に関する調査及び実践事業（研究代表者：武智浩之）  
研究協力者
- 4) **【厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業】**  
期間：2019年度～2021年度  
研究課題名：「国土強靱化計画をふまえ、地域の実情に応じた災害医療提供体制に関する研究」（研究代表者：小井土雄一）

分担研究課題「周産期・小児医療提供体制に 関する研究」研究協力者

5) 【厚生労働行政推進調査事業費補助金： 地域保健総合推進事業】

期間：2020 年度～2022 年度

研究課題名：妊活者を対象としたいわゆる健康食品（保健機能食品を除く）の提供・消費の実態把握と課題抽出、及び安全確保のためのリスクコミュニケーション方策の確立に向けた研究（研究代表者：和田安代）

研究分担者

11 学内研究助成金の受託

1) 2021 年度ヘルスイノベーション推進研究助成研究代表者

## 口羽 文

### 2 学術論文

- 1) Yuwaki K, [Kuchiba A](#), Otsuki A, Odawara M, Okuhara T, Ishikawa H, Inoue M, Tsugane S, and Shimazu T. Effectiveness of a cancer risk prediction tool on lifestyle habits: a randomized controlled trial. *Cancer Epidemiology, Biomarkers & Prevention*. 2021;30(6):1063-71.
- 2) Tagawa T, Yamada M, Minagawa T, Sekiguchi M, Konda K, Tanaka H, Takamaru H, Sekiguchi M, Sakamoto T, Matsuda T, [Kuchiba A](#), Yoshida H, Saito Y. Endoscopic characteristics influencing postpolypectomy bleeding in consecutive 1147 pedunculated colonic polyps: a multicenter retrospective study. *Gastrointestinal Endoscopy*. 2021;94(4):803-11 e6
- 3) Ochi E, Tsuji K, Narisawa T, Shimizu Y, [Kuchiba A](#), Suto A, Jimbo K, Takayama S, Ueno T, Sakurai N, Matsuoka YJ. Effect of home-based smartphone-supported high-intensity interval training on cardiorespiratory fitness in breast cancer survivors: a randomized controlled trial of the habit-B program. *BMJ Supportive & Palliative Care*. 2022;12(1):33-37.
- 4) Takahashi K, Yamamoto K, [Kuchiba A](#), Koyama T, Confidence interval for micro-averaged F1 and macro-averaged F1 scores. *Applied Intelligence*. 2022; 52(5):4961-4972.
- 5) Fujimoto K, Arita H, Satomi K, Yamasaki K, Matsushita Y, Nakamura T, Miyakita Y, Umehara T, Kobayashi K, Tamura K, Tanaka S, Higuchi F, Okita Y, Kanemura Y, Fukai J, Sakamoto D, Uda T, Machida R, [Kuchiba A](#), Maehara T, Nagane M, Nishikawa R, Suzuki H, Shibuya M, Komori T, Narita Y, Ichimura K. TERT promoter mutation status is necessary and sufficient to diagnose IDH-wildtype diffuse astrocytic glioma with molecular features of glioblastoma. *Acta Neuropathol* 2021;142(2):323-38.
- 6) Okuma HS, Yonemori K, Kojima Y, Tanioka M, Sudo K, Noguchi E, Hijioka S, Wakakuwa K, Kato K, Hirakawa A, [Kuchiba A](#), Kubo T, Ichikawa H, Yoshida A, Yatabe Y, Nakamura K, Mano H, Yamamoto N, Yasuhiro F, Clinical utility of circulating tumor DNA profiling in advanced rare cancers. *Frontiers in Oncology* 2021; 11:732525.
- 7) Shimizu Y, Tsuji K, Ochi E, Okubo R, [Kuchiba A](#), Shimazu T, Tatematsu N, Sakurai N, Iwata H, Matsuoka Y. Oncology care providers' awareness and practice related to physical activity promotion for breast cancer survivors and barriers and facilitators to such promotion: A nationwide cross-sectional web-based survey. *Supportive Care in Cancer* 2022 Apr;30(4):3105-3118.
- 8) Oshima K, Kato K, Ito Y, Daiko H, Nozaki I, Nakagawa S, Shibuya Y, Kojima T, Toh Y, Okada M, Hironaka S, Akiyama Y, Komatsu Y, Maejima K, Nakagawa H, Onuki R, Nagai M, Kato M, Kanato K, [Kuchiba A](#), Nakamura K, Kitagawa Y. A prognostic biomarker study in patients with clinical stage I esophageal squamous cell carcinoma:

JCOG0502-A1. Cancer Science 2022;113(3):1018-1027.

- 9) Tsukamoto S, Kuchiba A, Moritani K, Shida D, Katayama H, Yorikane E, Kanemitsu Y. Laparoscopic surgery using 8K ultra-high definition technology: Outcomes of a phase II study. Asian Journal of Endoscopic Surgery. 2022;15(1):7-14.
- 10) Tsuji K, Matsuoka YJ, Kuchiba A, Suto A, Ochi E. Accuracy of exercise-based tests for estimating cardiorespiratory fitness and muscle strength in breast cancer survivors in Japan. Supportive Care in Cancer 2022; 30(5):3857-3863.

### 3 その他の著作

- 1) 口羽文. ガンゲノムデータの探索とバリデーション. 医学の歩み. 2022; 280,5: 525-530.

### 4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) Japanese Organisation for Research and Treatment of Cancer (JORTC) プロトコール審査委員/独立データモニタリング委員, COI 委員, 2010 -
- 2) Japanese Journal of Clinical Oncology, Statistics Advisor, 2015/4 -
- 3) Japan Clinical Oncology Group (JCOG) 試料解析研究委員会, 委員, 2016/7 -
- 4) 国立がん研究センターMASTER KEY プロジェクト 生物統計・生物情報委員会, 委員, 2017/12 -
- 5) 国立がん研究センター中央病院臨床研究審査委員会, 委員, 2018/4 -
- 6) 国立がん研究センター東病院臨床研究審査委員会, 技術専門員, 2018/4 -
- 7) 計量生物学 編集委員会, 委員, 2019/1 -
- 8) 日本消化器内視鏡学会 和文誌編集委員会, 外部委員, 2019/10 -
- 9) Breast Cancer, Editorial Board, Statistical Consultants, 2020/11 -
- 10) BMC Cancer, Editorial Board Member, 2021/1 -
- 11) Japanese Journal of Statistics and Data Science, Associate Editor, 2021/10 -

### 5 社会貢献

- 1) 社会保険診療報酬支払基金, 医薬品に係るガイドラインの検証作業における作業補助者, 2016/10 -
- 2) 肺内石綿繊維計測制度管理等業務検討会委員, 2021/9 -

### 6 講演, 放送

- 1) Kuchiba A. Journal Club: Statistical considerations. JSMO-Rising Stars in Asia Workshop, Kyoto, Japan, February 15-16, 2022.

### 7 学会等での活動

[国際学会発表]

- 1) Narisawa T, Shimizu Y, Tsuji K, Ochi E, Okubo R, Kuchiba A, Sakurai N, Ueno T, Iwata H, Matsuoka Y. Association between physical activity and fear of cancer recurrence in breast cancer survivors: a nationwide cross sectional study. The 22nd

- World Congress of Psycho-Oncology & Psychosocial Academy (IPOS) 2021, May 26-29, Virtual.
- 2) Tsuji K, Ochi E, Shimizu Y, Kuchiba A, Narisawa T, Okubo R, Ueno T, Shimazu T, Kinoshita T, Suto A, Sakurai N, Matsuoka YJ. Effect of home-based high-intensity interval training and behavioral modification using information and communication technology on cardiorespiratory fitness and exercise habits among sedentary breast cancer survivors: the habit-B randomized controlled trial in progress. The 22nd World Congress of Psycho-Oncology & Psychosocial Academy (IPOS) 2021, May 26-29, Virtual.
  - 3) Ochi E, Tsuji K, Narisawa T, Shimizu Y, Kuchiba A, Suto A, Jimbo K, Takayama S, Ueno T, Sakurai N, Matsuoka YJ. Effect of home-based smartphone-supported high-intensity interval training on cardiorespiratory fitness in breast cancer survivors: a randomized controlled trial of the habit-B program. 44th Annual San Antonio Breast Cancer Symposium (SABCS). December 6 - 10, 2021.
  - 4) Saito J, Odawara M, Fujimori M, Saito E, Kuchiba A, Tatemichi M, Fukai K, Uchitomi Y and Shimazu T. A feasibility study of interactive assistance via eHealth for small and medium-sized enterprises' employer and health care manager teams on tobacco control: eSMART-TC. 14th Annual D&I Conference December 14-16, 2021, Virtual.
  - 5) Takahashi K, Yamamoto K, Kuchiba A, and Koyama T. Confidence interval of F1-scores for binary and multi-class classification. IACS-ARS2022, Kyoto, Japan, 21-24 Feb 2022.

[国内学会発表]

- 6) 小山莉里亜, 貞廣良一, 口羽文, 清水研, 青木一教, 松岡弘道, 齋藤英子. 日本人がん患者における術後せん妄に伴う医療費と入院日数の検討. 日本サイコオンコロジー学会, 2021/9/18-19, Virtual.
- 7) 小沢仁, 川崎真実子, 川嶋聡, 安生健太, 朱田仁恵, 大畑啓子, 森幹雄, 町田龍之介, 口羽文, 大熊裕介, 沖田南都子, 中村健一, 山本昇. 医薬品の初承認に至った国立がん研究センター中央病院の臨床試験支援体制. 日本臨床試験学会 13 回学術集会総会, 東京, 2022/2/4,5.
- 8) 川嶋聡, 安生健太, 小沢仁, 保科ゆかり, 森幹雄, 町田龍之介, 口羽文, 荒川歩, 小川千登世, 沖田南都子, 中村健一. 医師主導治験に対するリモート GCP 適合性調査への対応. 日本臨床試験学会 13 回学術集会総会, 東京, 2022/2/4,5.
- 9) 若林将史, 水澤純基, 小川岳人, 町田龍之介, 佐立峻, 野村尚吾, 口羽文, 山本精一郎, 柴田大朗. 国立がん研究センターにおける生物統計コンサルテーションの実績. 日本臨床試験学会 13 回学術集会総会, 東京, 2022/2/4,5.

8 学内教育活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 生物統計学基礎, 科目責任者 (修士課程 1年)
- 2) ヘルスイノベーション研究科 生物統計学実践, 科目責任者 (修士課程 2年)
- 3) ヘルスイノベーション研究科 統計プログラミング, 科目責任者 (修士課程 1年)

- 4) ヘルスイノベーション研究科 Introduction to Biostatistics, 一コマ (博士課程)
- 5) 研究指導: 修士課程 2年1名, 副指導教員

## 9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 入試委員会 委員 (通年)
- 2) ヘルスイノベーション研究科 研究倫理審査会 委員 (通年)

## 10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 「全国がん登録情報で得られる乳がん・卵巣がん・子宮体がんの発症率と胚細胞系列変異との統合解析による累積リスク評価系の構築 (代表: 白石航也)」, 厚生労働科学研究費, 2020/4 - 2022/3, 研究開発分担者.
- 2) 「オミクスデータを伴う臨床研究に対する生物統計学と生物情報学の協同体制構築と解析手法 (代表: 柴田大朗)」, 国立がん研究センター研究開発費, 2020/4 - 2023/3, 研究開発分担者 (国立がん研究センターで受託).
- 3) 「個人の発がんリスク評価方法の革新的改善に資する疫学研究の推進 (代表: 岩崎基)」, AMED 革新的がん医療実用化研究事業, 2020/4 - 2023/3, 研究開発分担者.
- 4) 「大規模コホート研究に基づくビタミン D とがん罹患の因果関係評価に資する分子疫学研究 (代表: 岩崎基)」, 科学研究費助成事業 基盤研究(B), 2020/4 - 2023/3, 研究開発分担者.
- 5) 「日本人におけるがんに関する健康情報へのアクセス、IT利用、健康行動についての調査 (代表: 島津太一)」, 国立がん研究センター研究開発費, 2021/4 - 2024/3, 研究協力者 (国立がん研究センターで受託).
- 6) 「複雑な疫学データに対する多段階サンプリングモデルの応用 (代表: 口羽文)」, 科学研究費助成事業 基盤研究(C), 2021/4 - 2024/3, 研究代表者.
- 7) 「アプリを活用した在宅の高強度インターバルトレーニングが乳がんサバイバーの倦怠感に与える影響: 多施設共同ランダム化比較試験 (代表: 越智英輔)」, AMED 医療機器等における先進的研究開発・開発体制強靱化事業, 2021/9 - 2024/3, 研究開発分担者.

## 14 その他

- 1) 横浜市立大学医学研究科 臨床統計学, 客員准教授
- 2) 国立がん研究センター 研究支援センター 生物統計部 医学統計室, 室長 (兼: がん対策研究所 生物統計研究部 生物統計研究室, 室長, 中央病院 臨床研究支援部門 研究企画推進部 生物統計室, 室員) (クロスアポイントメント)

## 津野 香奈美

### 1 著書

- 1) 分担執筆：女性と健康の百科事典翻訳刊行編集委員会（編），下光輝一（編集主幹）．女性と健康の百科事典．丸善出版．2022年1月

### 2 学術論文

- 1) Okubo R, Yoshioka T, Nakaya T, Hanibuchi T, Okano H, Ikezawa S, Tsuno K, Murayama H, Tabuchi T. Urbanization level and neighborhood deprivation, not COVID-19 case numbers by residence area, are associated with severe psychological distress and new-onset suicidal ideation during the COVID-19 pandemic. *J Affect Disord*. 2021 May 15;287:89-95. doi: 10.1016/j.jad.2021.03.028.
- 2) Tamura M, Hattori S, Tsuji T, Kondo K, Hanazato M, Tsuno K, Sakamaki H. Community-Level Participation in Volunteer Groups and Individual Depressive Symptoms in Japanese Older People: A Three-Year Longitudinal Multilevel Analysis Using JAGES Data. *Int J Environ Res Public Health*. 2021 Jul 14;18(14):7502. doi: 10.3390/ijerph18147502.
- 3) Matsushima M, Tsuno K, Okawa S, Hori A, Tabuchi T. Trust and well-being of postpartum women during the COVID-19 crisis: Depression and fear of COVID-19. *SSM Popul Health*. 2021 Aug 26;15:100903. doi: 10.1016/j.ssmph.2021.100903.
- 4) Hidaka Y, Sasaki N, Imamura K, Tsuno K, Kuroda R, Kawakami N. Changes in fears and worries related to COVID-19 during the pandemic among current employees in Japan: a 5-month longitudinal study. *Public Health*. 2021 Sep;198:69-74. doi: 10.1016/j.puhe.2021.06.017.
- 5) Rugulies R, Sørensen K, Di Tecco C, Bonafede M, Rondinone BM, Ahn S, Ando E, Ayuso-Mateos JL, Cabello M, Descatha A, Dragano N, Durand-Moreau Q, Eguchi H, Gao J, Godderis L, Kim J, Li J, Madsen IEH, Pachito DV, Sembajwe G, Siegrist J, Tsuno K, Ujita Y, Wang J, Zadow A, Iavicoli S, Pega F. The effect of exposure to long working hours on depression: A systematic review and meta-analysis from the WHO/ILO Joint Estimates of the Work-related Burden of Disease and Injury. *Environ Int*. 2021 Oct;155:106629. doi: 10.1016/j.envint.2021.106629.
- 6) Sasaki N, Kuroda R, Tsuno K, Imamura K, Kawakami N. Increased suicidal ideation in the COVID-19 pandemic: an employee cohort in Japan. *BJPsych Open*. 2021 Oct 29;7(6):e199. doi: 10.1192/bjo.2021.1035.
- 7) 佐々木那津, 津野香奈美, 日高結衣, 安藤絵美子, 浅井裕美, 櫻谷あすか, 日野亜弥子, 井上嶺子, 今村幸太郎, 渡辺和広, 堤明純, 川上憲人. 日本人女性労働者の就労上課題となる生物心理社会的な要因, 制度利用状況, 期待する職場での研究テーマのニーズ: 患者・市民参画 (PPI: Patient and Public Involvement) の枠組みを用いたインターネット調査による横断研究. *産業衛生学雑誌*. 2021 Nov 25;63(6):275-290. doi: 10.1539/sangyoeisei.2020-002-B.

- 8) Asaoka H, Sasaki N, Kuroda R, Tsuno K, Kawakami N. Workplace Bullying and Patient Aggression Related to COVID-19 and its Association with Psychological Distress among Health Care Professionals during the COVID-19 Pandemic in Japan. *Tohoku J Exp Med*. 2021;255(4):283-289. doi: 10.1620/tjem.255.283.
  - 9) Ishimaru T, Tsuno K, Hori A, Okawara M, Yasuda Y, Fujino Y, Tabuchi T. Disrupted care during the COVID-19 state of emergency and productivity loss attributed to presenteeism in workers: a nationwide cross-sectional study. *BMJ Open*. 2021 Dec 14;11(12):e050068. doi: 10.1136/bmjopen-2021-050068.
  - 10) Sasaki N, Imamura K, Kataoka M, Kuroda R, Tsuno K, Sawada U, Asaoka H, Iida M, Kawakami N. COVID-19 measurements at the workplace in various industries and company sizes: a 2-month follow-up cohort study of full-time employees in Japan. *Environ Occup Health Practices*. 2021; 3: eohp.2020-0017-OA. doi: 10.1539/eohp.2020-0017-OA
  - 11) 津野香奈美. 職場のハラスメントをめぐる国内外の最新の動向. *産業ストレス研究*. 2021; 28 : 385-393.
  - 12) 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 川上憲人. 新型コロナウイルス感染症対策と従業員の健康・パフォーマンス. *産業精神保健*. 2021 ; 29 : 36-40.
  - 13) Iida M, Sasaki N, Imamura K, Kuroda R, Tsuno K, Kawakami N. COVID-19-related workplace bullying and customer harassment among healthcare workers over the time of the COVID-19 outbreak: A eight-month panel study of full-time employees in Japan. *J Occup Environ Med*. 2022 Feb 9. doi: 10.1097/JOM.0000000000002511.
- 3 その他の著作
- 1) 津野香奈美. パワハラ防止法を理解しよう. *産業保健と看護*. 2021 ; 13 : 6-11.
  - 2) 津野香奈美, 種市康太郎. マネージャーの主体的朗働～部下と共に元気な組織をつくる～. *産業ストレス研究*. 2021 ; 28 : 439-443.
  - 3) 津野香奈美. 職場のハラスメントの経済損失—疾病休業・労働生産性・離職の観点から— . *産業医学ジャーナル*. 2021 ; 44 : 4-10.
  - 4) 津野香奈美. 研究者の視点から見たパワハラ防止対策 確立されたエビデンスを利用しながら職員が心身ともに健康で働ける環境をつくろう. *地方公務員 安全と健康フォーラム*. 2022 ; 120 : 9-13.
  - 5) 津野香奈美. 新型コロナウイルス感染症と勤労者のメンタルヘルス: 差別、偏見、ストレス. *神奈川県立保健福祉大学誌*. 2022 ; 19.
- 4 学会, 協会, 公的団体の委員など
- 1) 日本産業カウンセラー協会 産業カウンセラー (2014.4～)
  - 2) 日本産業ストレス学会 理事・評議員 (2014.11～)
  - 3) 日本産業ストレス学会誌『産業ストレス研究』編集委員 (2015.1～)
  - 4) 公益財団法人 21世紀職業財団 ハラスメント防止コンサルタント (2015.3～)
  - 5) 労働時間日本学会 理事 (2016.6～)
  - 6) 日本行動医学会 理事 (2016.7～)

- 7) 日本行動医学会学会誌『行動医学雑誌』編集委員 (2016.7～)
- 8) 日本産業衛生学会 代議員 (2018.11～)
- 9) Journal of Occupational Health (日本産業衛生学会英文誌) Assistant Editor (2020.3～)
- 10) 日本疫学会認定 疫学専門家 (2020.3～)
- 11) 日本産業衛生学会 編集委員 (2020.4～)
- 12) 厚生労働省「中小企業におけるハラスメント相談体制実証事業」検討委員会 委員 (2020.4～2022.3)
- 13) 第28回日本行動医学会学術総会 大会準備委員 (2020.4～2021.12)
- 14) 日本行動医学会 国際交流委員会委員長 (2020.7～)
- 15) 神奈川県立循環器呼吸器病センター 研究倫理審査委員・倫理委員 (2020.9～)
- 16) 東京都港区 男女平等参画苦情処理委員 (2020.9～)
- 17) 神奈川県 生活習慣病対策委員会 委員 (2021.4～)
- 18) 神奈川県 かながわ健康プラン 21 目標評価部会 委員 (2021.4～)
- 19) 神奈川県相模原市 参与 (2021.4～)

## 5 社会貢献

- 1) 神奈川県 自殺対策及び自殺統計解析への助言 (通年)
- 2) 神奈川県 生活習慣病対策への助言 (通年)
- 3) 神奈川県相模原市 ハラスメント対策への助言 (通年)
- 4) 神奈川県 労働大学講座・労務管理実務講座で講義実施 (2021年11月)
- 5) 神奈川県警 ハラスメント防止研修実施 (2021年11月)
- 6) 神奈川県立保健福祉大学 ヒューマンサービス公開講座に出演 (2021年6月)
- 7) 厚生労働省 過労死等防止対策推進シンポジウムへの登壇 (2021年11～12月)
- 8) 厚生労働省 ハラスメント撲滅シンポジウムへの登壇 (2021年12月)
- 9) 厚生労働省「中小企業におけるハラスメント相談体制実証事業」検討委員会委員 (通年)
- 10) 公益財団法人 21世紀職業財団 ハラスメント防止コンサルタント養成講座への登壇と試験問題作成 (2021年9月)
- 11) 株式会社クオレ・シー・キューブ顧問として、企業での調査データの取りまとめやeラーニングの監修、エビデンスの提供 (通年)
- 12) 自治体で地方公務員を対象とした講演・研修実施 (通年)
- 13) WHO、ILO との労働時間に関する国際共同研究実施 (通年)
- 14) 東京大学、横浜市立大学、慶応義塾大学にて学部生向けに講義実施 (通年)

## 6 講演、放送

(講演)

- 1) (株)クオレ・シー・キューブ パワハラ対策研究会第1回「パワハラ行為者の特徴」  
2021.5.25
- 2) 自治労北海道本部 2021年度労働安全衛生講座「誰もが安心して働ける職場づくりにむけて～パワハラに関する基本的知識と対策～」 2021.6.8
- 3) 神奈川県立保健福祉大学 2021年度ヒューマンサービス公開講座「コロナ禍における職

場のメンタルヘルス」2021.6.14

- 4) (株)クオレ・シー・キューブ パワハラ対策研究会第2回「パワハラを受けやすい人とは」。2021.6.23
- 5) (株)クオレ・シー・キューブ パワハラ対策研究会第3回「パワハラが個人や周囲にもたらす影響」2021.7.28
- 6) (株)クオレ・シー・キューブ パワハラ対策研究会 職場環境編第1回「パワハラを発生させる職場環境の特徴とは」2021.9.8
- 7) 公益財団法人21世紀職業財団 第13回ハラスメント防止コンサルタント養成講座「ハラスメントの基礎知識」2021.9.18
- 8) (株)クオレ・シー・キューブ パワハラ対策研究会 職場環境編第2回「パワハラが発生しにくい職場をつくる方法を知る」2021.10.6
- 9) 東京大学 職場のメンタルヘルス専門家養成プログラムイブニングセミナー「職場のメンタルヘルスの専門家としてハラスメント問題に対応する」2021.10.16
- 10) 東京大学大学院 医学系研究科公共健康医学専攻 精神保健学Ⅱ講義「職場のいじめとメンタルヘルス」2021.10.19
- 11) 横浜市立大学大学院 データサイエンス研究科 臨床計量学講義「質問票の翻訳」2021.10.13
- 12) 相模原市 経営層研修「風通しの良い職場づくり」2021.10.14
- 13) 相模原市消防局 安全衛生研修「ハラスメントが起こる職場の特徴と防止対策」2021.10.28
- 14) 神奈川県警 管理監督者向け研修「ハラスメントにならない部下指導のコツ」2021.11.1
- 15) (株)クオレ・シー・キューブ パワハラ対策研究会 職場環境編第3回「組織風土改革に焦点を当てたパワハラ一次予防プログラムを立案する」2021.11.10
- 16) (株)クオレ・シー・キューブ ハラスメント相談員講話「コロナ禍のハラスメントの状況と相談対応へのポイント」2021.11.15
- 17) 厚生労働省 過労死等防止対策推進シンポジウム(埼玉会場) 基調講演「パワハラ of 科学：パワハラはなぜ起こるのか、どう対策を進めれば良いのか」2021.11.19
- 18) 厚生労働省 過労死等防止対策推進シンポジウム(富山会場) 基調講演「パワハラ of 科学：パワハラはなぜ起こるのか、どう対策を進めれば良いのか」2021.11.24
- 19) 公益財団法人神奈川県労働福祉協会 令和3年度第71期神奈川県労働大学講座「職場のハラスメント防止対策：科学的根拠を基に進める対策と予防措置」2021.11.26
- 20) 厚生労働省 過労死等防止対策推進シンポジウム(熊本会場) 基調講演「パワハラ of 科学：パワハラはなぜ起こるのか、どう対策を進めれば良いのか」2021.11.30
- 21) 厚生労働省 過労死等防止対策推進シンポジウム(新潟会場) 基調講演「パワハラ of 科学：パワハラはなぜ起こるのか、どう対策を進めれば良いのか」2021.12.2
- 22) 北見消防職員協議会研修「誰もが安心して働ける職場づくりにむけて～パワハラが発生する要因とその対策～」2021.12.6
- 23) 厚生労働省主催 職場のハラスメント対策シンポジウム 基調講演「職場のハラスメントに関する実態調査、企業に求められる今後の対策」2021.12.10
- 24) 独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 労働組合講演「職場におけるハラスメントの一次予防対策について」2022.1.31

- 25) 全日本自治団体労働組合 2022年度自治労安全衛生講座「ハラスメントに関する基本的知識と対策」2022.2.14

(新聞記事)

- 26) 熊本日日新聞「礼節ある言動 パワハラ防ぐ」取材記事 2021.5.30  
27) 朝日新聞「トヨタの風土 改善なるか」記事内コメント 2021.6.7  
28) 朝日新聞「パワハラ 職場全員で止めて」取材記事 2021.11.25

## 7 学会等での活動

(教育講演・シンポジウム)

- 1) 津野香奈美, コロナ禍の労働者のメンタルヘルス. 第6回労働時間日本学会研究集会. 2021年7月  
2) 津野香奈美, 会社としてどう対応すべきだったのか&企業に求められているパワハラ対策. 第29回日本産業ストレス学会. 2022年3月

(発表)

- 3) Kanami Tsuno, Midori Shimura, Izumi Inao, Tomoko Nishimoto, Yasuko Okada. The costs of workplace bullying in Japan. 12th International Conference on Workplace Bullying and Harassment, April 2021  
4) 津野香奈美, 田淵貴大. COVID-19 流行下における職場のハラスメント経験とメンタルヘルスとの関連. 第94回日本産業衛生学会, 2021年5月  
5) 小林由佳, 櫻谷あすか, 井上彰臣, 江口尚, 大塚泰正, 津野香奈美, 荒川裕貴, 川上憲人, TOMH 専門家養成基礎コース同窓会. 産業保健職向け TOMH リーダーシップチェックリストの開発: 予備調査結果. 第94回日本産業衛生学会, 2021年5月  
6) 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 今村幸太郎, 川上憲人. COVID-19 流行下での医療従事者と一般労働者のメンタルヘルスの推移: オンラインコホート調査 (E-COCO-J) より. 第94回日本産業衛生学会, 2021年5月  
7) 飯田真子, 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 今村幸太郎, 川上憲人. 医療福祉職と一般労働者における新型コロナウイルス感染症関連ハラスメント頻度の推移. 第94回日本産業衛生学会, 2021年5月  
8) Yasumasa Otsuka, Yuka Matsutaka, Kanami Tsuno, Kei Fuji, Kouta Horiguchi, Junko Iida, Kyoko Shimada, Hiroko Endo. Sex and age differences in homophobia and transphobia among Japanese workers. 16th International Congress of Behavioural Medicine, June 2021  
9) Kanami Tsuno, Masahiro Yamamoto, Asami Tsuji. Workplace incivility and medical errors in Japan. 16th International Congress of Behavioural Medicine, June 2021  
10) Kazuhiro Watanabe, Norito Kawakami, Kanami Tsuno. Detecting workplace bullying from demographics, health/occupational outcomes, and psychosocial factors at work: a cross-sectional study applying machine learning. 16th International Congress of Behavioural Medicine, June 2021  
11) Yasumasa Otsuka, Kanami Tsuno, Yuka Matsutaka, Kei Fuji, Kouta Horiguchi, Junko

- Iida, Kyoko Shimada, Hiroko Endo. The number of sexual minority workers in Japan. 32nd International Congress of Psychology, July 2021
- 12) Kei Fuji, Yasumasa Otsuka, Kanami Tsuno, Yuka Matsutaka, Kouta Horiguchi, Junko Iida, Kyoko Shimada, Hiroko Endo. Effects of online communication on coming out and satisfaction at workplace in sexual minorities. 32nd International Congress of Psychology, July 2021
  - 13) 津野香奈美, 田淵貴大. 禁煙への関心度(行動変容ステージ)及び禁煙手法と翌年の禁煙状況. 第28回日本行動医学会, 2021年11月
  - 14) 津野香奈美, 大川純代, 松島みどり, 荒川裕貴, 田淵貴大. コロナ禍における社会制限及びサポート喪失と産後うつとの関連: JACSIS スタディ. 第80回日本公衆衛生学会, 2021年12月
  - 15) 柳沼梢, 笠原賀子, 津野香奈美, 吉益光一, 龍田希, 仲井邦彦. 管理栄養士・栄養士の努力-報酬不均衡と心理的ストレス反応の関係. 第80回日本公衆衛生学会, 2021年12月
  - 16) Shigeki Takemura, Kouichi Yoshimasu, Kanami Tsuno, Kazuhisa Miyashita, Akira Fujiyoshi. Hypertension-associated factors among vibrating tool operators in public service. 第80回日本公衆衛生学会, 2021年12月
  - 17) 津野香奈美, 松島みどり, 大川純代, 田淵貴大. 社会経済的状況と産後うつとの関連: JACSIS 妊産婦コホート研究. 第32回日本疫学会学術総会, 2022年1月
  - 18) Kanami Tsuno, Takahiro Tabuchi. Association between workplace bullying and mental health in the COVID-19 pandemic. The 33rd International Congress on Occupational Health, February 2022
  - 19) Yui Hidaka, Natsu Sasaki, Kotaro Imamura, Kanami Tsuno, Reiko Kuroda, Norito Kawakami. Changes in fears and worries related to COVID-19 during the pandemic among current employees in Japan: a 5-month longitudinal study. The 33rd International Congress on Occupational Health, February 2022
  - 20) Sayaka Ogawa, Haruka Tomonaga, Natsu Sasaki, Reiko Kuroda, Kanami Tsuno, Kotaro Imamura, Norito Kawakami. Online occupational health consultations in the COVID-19 pandemic: experience, user satisfaction, and difficulties from a nationwide cross-sectional online survey of workers in Japan. The 33rd International Congress on Occupational Health, February 2022
  - 21) Norito Kawakami, Natsu Sasaki, Hiroki Asaoka, Reiko Kuroda, Kanami Tsuno, Kotaro Imamura. Employees' worry about workplace measures against COVID-19 and the onset of major depressive episode: A 13-month prospective study of full-time employees. The 33rd International Congress on Occupational Health, February 2022
  - 22) Natsu Sasaki, Kotaro Imamura, Kyosuke Nozawa, Hajime Takeno, Reiko Kuroda, Kanami Tsuno, Akizumi Tsutsumi, Norito Kawakami. Working from home or going to the office: mental health and its associated psychosocial factors at work from 9-month prospective study in the COVID-19 pandemic. The 33rd International Congress on Occupational Health, February 2022
  - 23) Mako Iida, Natsu Sasaki, Kotaro Imamura, Reiko Kuroda, Kanami Tsuno, Norito

Kawakami. COVID-19-related workplace bullying and customer harassment among healthcare workers over the time during the COVID-19 outbreak: A eight-month panel study of full-time employees in Japan. The 33rd International Congress on Occupational Health, February 2022

- 24) 佐々木那津, 黒田玲子, 津野香奈美, 今村幸太郎, 川上憲人. 仕事のストレス要因および職場の支援は新型コロナウイルス感染症ワクチンの副反応に影響を与えるか: 前向きコホート研究. 第29回日本産業ストレス学会, 2022年3月

(座長)

- 25) 一般演題座長「コロナセッション1」第94回日本産業衛生学会, 2021年5月  
26) 特別講演座長「行動経済学をCOVID-19対策に活かす」第28回日本行動医学会, 2021年11月  
27) 一般演題座長「一般演題2」第28回日本行動医学会, 2021年11月

## 8 学内教育活動

(学科)

- 1) 公衆衛生学Ⅰ (栄養学科)
- 2) 公衆衛生学Ⅱ (栄養学科)

(修士課程)

- 3) 健康行動科学 (ヘルスイノベーション研究科, 科目責任者)
- 4) 社会健康学・社会疫学 (ヘルスイノベーション研究科, 科目責任者)
- 5) 産業保健学 (ヘルスイノベーション研究科)
- 6) ヘルスイノベーション演習基礎 (ヘルスイノベーション研究科)
- 7) ヘルスイノベーション演習 (ヘルスイノベーション研究科)
- 8) 社会行動科学特別演習 (ヘルスイノベーション研究科)
- 9) 修士課程の研究指導: 指導教員担当学生4名、指導補助教員担当学生5名

(博士課程)

- 10) パブリックヘルスリーダーシップ特講 (ヘルスイノベーション研究科)
- 11) ヘルスイノベーション特別研究 (ヘルスイノベーション研究科)
- 12) 博士課程の研究指導: 指導教員担当学生1名

## 9 学内各種委員会活動

- 1) 全学研究委員会委員 (通年): 大学誌の投稿規定の改正
- 2) ヘルスイノベーション研究科研究委員会委員 (通年)
- 3) ヘルスイノベーション研究科研究倫理審査会委員 (通年)
- 4) ヘルスイノベーション研究科面接委員 (一次選考・二次選考)
- 5) SHI 教授会

10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 2019～2021 年度日本学術振興会 科学研究費補助金 若手「労働時間や職場風土と従業員の健康・生産性との関連：職場外要因を含めた複合的検討」(課題番号：19K19439)  
研究代表者

11 学内研究助成金の受託

- 1) 2021 年度ヘルスイノベーション推進研究助成「仕事の資源が介護老人保健施設の従業員のワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響に関する実態調査」研究代表者

12 受賞

- 1) Early Career Award (International Society of Behavioral Medicine, June 2021)

## 渡邊 亮

### 2 学術論文

- 1) 江頭勇紀・渡邊亮 (2021) 「神奈川県における自宅死の割合と在宅医療に特化した医療機関や在宅療養を支援する施設数等の関係性について」『神奈川県公衆衛生学会誌』67, 17-19.
- 2) 阪口博政・古井健太郎・渡邊亮・荒井耕 (2021) 「急性期病院で利用される財務関連指標の重視度調査—DPC/PDPS 対象病院に対するアンケート調査の結果から」『一橋商学論叢』16(2), 2-25.
- 3) Suwanai, H., Watanabe, R., Matsumura, H. (2021). Reply: Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor Reduces the Risk of Developing Hypertrophic Scars and Keloids following Median Sternotomy in Diabetic Patients: A Nationwide Retrospective Cohort Study Using the National Database of Health Insurance Claims of Japan. *Plastic and Reconstructive Surgery*. 147(6), 1068e-1069e.

### 3 その他の著作

- 1) 松永 早苗, 黒木 利恵, 佐々木 杏子, 駿藤 晶子, 石井 忍, 藤田 峰子, 長山 洋史, 城川 美佳, 渡邊 亮. (2022). 報告1 新型コロナウイルス感染症に対する国・神奈川県の対応と社会情勢. 学長特別プロジェクト「ウィズコロナの社会における保健・医療・福祉のあり方に関する総合的研究」報告書, 11-24.
- 2) 渡邊 亮, 佐々木 杏子, 駿藤 晶子, 石井 忍, 藤田 峰子, 長山 洋史, 城川 美佳, 黒木 利恵, 松永 早苗. (2022). 報告2 神奈川県立保健福祉大学における新型コロナウイルス感染症への対応と今後の展望: 文献調査に基づく本学の対応の全体像. 学長特別プロジェクト「ウィズコロナの社会における保健・医療・福祉のあり方に関する総合的研究」報告書, 25-38.
- 3) 藤田 峰子, 駿藤 晶子, 長山 洋史, 佐々木 杏子, 石井 忍, 城川 美佳, 黒木 利恵, 松永 早苗, 渡邊 亮. (2022). 報告3 新型コロナウイルス感染症流行下における教員の教育・研究活動への取り組みと生活習慣への影響について —アンケート調査による実態把握—. 学長特別プロジェクト「ウィズコロナの社会における保健・医療・福祉のあり方に関する総合的研究」報告書, 39-54.
- 4) 駿藤 晶子, 加藤 千穂, イスハク ハリム オクタウィジャヤ, 佐々木 杏子, 石井 忍, 藤田 峰子, 長山 洋史, 城川 美佳, 黒木 利恵, 松永 早苗, 渡邊 亮. (2022). 報告4 新型コロナウイルス感染症が学生生活に及ぼす影響—アンケート調査による実態把握—. 学長特別プロジェクト「ウィズコロナの社会における保健・医療・福祉のあり方に関する総合的研究」報告書, 55-84.
- 5) 城川 美佳, 佐々木 杏子, 駿藤 晶子, 石井 忍, 藤田 峰子, 長山 洋史, 黒木 利恵, 松永 早苗, 渡邊 亮. (2022). 報告5 新型コロナウイルス感染症パンデミックに対する本学教職員の研究・社会貢献活動. 学長特別プロジェクト「ウィズコロナの社会における保健・医療・福祉のあり方に関する総合的研究」報告書, 85-92.
- 6) 渡邊 亮, 佐々木 杏子, 駿藤 晶子, 石井 忍, 藤田 峰子, 長山 洋史, 城川 美佳, 黒木 利恵, 松永 早苗. (2022). 報告6 神奈川県立保健福祉大学における新型コロナウイルス

ス感染症への対応と今後の展望：総括と提案. 学長特別プロジェクト「ウィズコロナの社会における保健・医療・福祉のあり方に関する総合的研究」報告書, 93-98.

- 7) 渡邊亮 (2021) 「健康寿命を延ばす神奈川県の取り組み：未病と未病指標」『健康マスター検定：健康お役立ちコラム (前編)』 (<https://kenken.or.jp/column/10885>, 2022.01.21)
- 8) 渡邊亮. (2021). 「健康寿命を延ばす神奈川県の取り組み：未病と未病指標」『健康マスター検定：健康お役立ちコラム (後編)』 (<https://kenken.or.jp/column/10950>, 2022.01.21)

#### 4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 一社)日本医療情報学会 医療情報技師育成部会 広報渉外委員会委員
- 2) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 科学技術調査員
- 3) 一橋大学社会科学高等研究院 医療政策・経済研究センター 客員研究員
- 4) かながわ健康プラン 21 目標評価ワーキングチーム 構成員
- 5) 公衆衛生大学院プログラム校連絡会議 構成員
- 6) 一般社団法人日本ユーザビリティ医療情報化推進協議会 医療情報基本法推進プロジェクト委員会 委員
- 7) 一般社団法人次世代基盤政策研究所 上席研究員
- 8) 神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室 アドバイザー
- 9) 病院管理会計研究会 運営メンバー

#### 5 社会貢献

- 1) 神奈川県内市町村協会けんぽ・国民健康保険データの集計・解析事業及び県・市町村・保健所担当者向け研修会の実施 (イノベーション政策研究センター受託事業) (2021 年 4 月～2022 年 3 月)
- 2) 未病指標の精緻化等に関する実証事業の実施 (イノベーション政策研究センター受託事業) (2021 年 4 月～2022 年 3 月)
- 3) 神奈川県における新型コロナウイルス感染症に係る予測モデルの開発 (イノベーション政策研究センター受託事業) (2021 年 5 月～12 月)
- 4) 市町村の糖尿病重症化予防施策立案に向けた保健医療データ分析 (イノベーション政策研究センター受託事業) (2021 年 10 月～2022 年 3 月)
- 5) ヘルスケア・ニューフロンティア検討会への参加およびヘルスケア・ニューフロンティア政策に関する事業整理・評価スキームのアドバイス (2021 年 9 月～12 月)
- 6) 「レギュラトリーサイエンス公開講座」の開催企画・運営 (2021 年 10 月～)

#### 6 講演, 放送

- 1) 未病産業研究会主催「公衆衛生学入門講座」講師
- 2) 東京医科歯科大学医歯学総合研究科非常勤講師
- 3) 埼玉県立大学非常勤講師
- 4) 九州大学大学院医学系学府「医療経営学」講師
- 5) 東京大学「経営のできる大学病院幹部養成プログラム」講師
- 6) 神戸大学「課題解決型高度医療人材養成プログラム 実践的病院経営マネジメント人材養成プラン」講師

- 7) 一橋大学「HIAS Health 社会連携プログラム 第3回医療経済短期集中コース」チューター
- 8) 日本赤十字看護大学「看護管理学特講」講師
- 9) 神奈川県立保健福祉大学「2021年春季ヒューマンサービス公開講座」モデレーター

## 7 学会等での活動

- 1) 第41回医療情報学連合大会（第22回日本医療情報学会学術大会）実行委員(名古屋市), 2021年11月
- 2) 第41回医療情報学連合大会（第22回日本医療情報学会学術大会）座長(名古屋市), 2021年11月

## 8 学内教育活動

- 1) 健康・医療政策（ヘルスイノベーション研究科修士1年前期，科目責任者）
- 2) ヘルスケア管理学（ヘルスイノベーション研究科修士2年前期，科目責任者）
- 3) 未病社会のライフデザイン（ヘルスイノベーション研究科修士1年後期，科目責任者）
- 4) パブリックヘルス・リーダーシップ特講（ヘルスイノベーション研究科博士1年前期，科目担当者）
- 5) 世界の健康課題とイノベーション特講（ヘルスイノベーション研究科博士1年後期，科目担当者）
- 6) 演習基礎（ヘルスイノベーション研究科修士1年後期）
- 7) ヘルスイノベーション研究科修士課程学生 指導教員
- 8) ヘルスイノベーション研究科修士課程学生 指導補助教員
- 9) ヘルスイノベーション研究科修士課程課題研究 主査
- 10) ヘルスイノベーション研究科修士課程課題研究 副査
- 11) マヒドン大学との協働ワークショップ企画・運営
- 12) TUNITE 指導・支援人材育成プログラムの受講（2021年4月～）

## 9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科 研究科長特別補佐
- 2) ヘルスイノベーション研究科 教務・学生委員会委員
- 3) ヘルスイノベーション研究科 企画委員会委員
- 4) 地域貢献研究センター地域貢献部門 委員
- 5) イノベーション政策研究センター プロジェクト担当（研究員兼任）
- 6) 神奈川県立保健福祉大学誌 査読委員
- 7) 学長特別プロジェクト委員（2021年5月～）
- 8) 20周年記念事業企画ワーキンググループ委員（2021年11月～）

## 10 科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

- 1) 「高感度トロポニンTを用いた0-1hrアルゴリズムの導入医療費の削減効果の検討」日本学術振興会：基盤研究(C). 研究期間：2018年4月-2023年3月. 代表者：井上健司.
- 2) 「公的資金が投入されている医療の公共性と公共財としての在り方に関する研究」日本

- 学術振興会: 基盤研究 (B). 研究期間: 2020 年 4 月-2023 年 3 月. 代表者: 小林大介.
- 3) 「急性期病院におけるフレイルおよび高齢者の総合的アセスメントに関する研究」日本学術振興会: 基盤研究 (C). 研究期間: 2019 年 4 月-2023 年 3 月. 代表者: 大西丈二.
- 4) 「医療機関における経営企画機能のあり方に関する調査研究」日本学術振興会: 基盤研究 (C). 研究期間: 2017 年 4 月-2021 年 3 月. 代表者: 阪口博政.
- 5) 「携帯電話関連技術を用いた感染症対策に関する包括的検討」社会技術研究開発センター: 科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム. 研究期間 2020 年 9 月-2023 年 8 月. 代表者: 米村滋人.
- 6) 「地域の合意形成を加速化させるデジタルトランスフォーメーションの実現のための研究 (課題番号: 21CA2016)」令和 3 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (厚生労働科学特別研究事業). 研究機関 2021 年 8 月-2022 年 3 月. 代表者: 佐藤大介.

## Thomas Svensson

### 2 Academic articles

- 1) Staffini A, Fujita K, Svensson AK, Chung UI, **Svensson T**. Statistical Methods for Item Reduction in a Representative Lifestyle Questionnaire: Pilot Questionnaire Study. *Interact J Med Res.* 2022;11(1):e28692.
- 2) Staffini A, **Svensson T**, Chung UI, Svensson AK. *Heart Rate Modeling and Prediction Using Autoregressive Models and Deep Learning.* *Sensors (Basel).* 2021;22(1).
- 3) **Svensson T**, Sawada N, Mimura M, Nozaki S, Shikimoto R, Tsugane S. *Midlife intake of the isoflavone genistein and soy, and the risk of late-life cognitive impairment: the JPHC Saku Mental Health Study.* *J Epidemiol.* 2021.
- 4) Meguro K\*, **Svensson T\***, ChungChung UI, Svensson AK. *Associations of Work-related Stress and Total Sleep Time with Cholesterol Levels in an Occupational Cohort of Japanese Office Workers.* *J Occup Health.* 2021;63(1):e12275.
- 5) Hara K, Kobayashi Y, Tomio J, Ito Y, **Svensson T**, Ikesu R, Chung UI, Svensson AK. *Claims-based algorithms for common chronic conditions were efficiently constructed using machine learning methods.* *PLoS One.* 2021;16(9):e0254394.
- 6) **Svensson T**, Saito E, Svensson AK, Melander O, Orho-Melander M, Mimura M, Rahman S, Sawada, N, Koh WP, Shu XO, Tsuji I, Kanemura S, Park SK, Nagata C, Tsugane S, Cai H, Yuan JM, Matsuyama S, Sugawara Y, Wada K, Yoo KY, Chia KS, Boffetta P, Ahsan H, Zheng W, Kang D, Potter JD, Inoue M. *Association of Sleep Duration With All- and Major-Cause Mortality Among Adults in Japan, China, Singapore, and Korea.* *JAMA Netw Open.* 2021;4(9):e2122837
- 7) Ikesu R, Miyawaki A, Svensson AK, **Svensson T**, Kobayashi Y, Chung UI. *Association of managerial position with cardiovascular risk factors: A fixed-effects analysis for Japanese employees.* *Scandinavian journal of work, environment & health.* 2021;47(6):425-34.
- 8) Staffini A, Svensson AK, Chung U-I, **Svensson T**. *An Agent-Based Model of the Local Spread of SARS-CoV-2: Modeling Study.* *JMIR Med Inform.* 2021;9(4):e24192.

### 4 Membership of academic society, academies, and public institutions

- 1) Project researcher at the Precision Health group, Department of Bioengineering, the University of Tokyo. My research uses digital health data and big data with a specific focus on stress and sleep.
- 2) Visiting researcher at the National Cancer Center, Japan. My research uses the largest longitudinal cohort study in Japan (the Japan Public Health Center-based Prospective Study).
- 3) Researcher at Lund University, Sweden. My research focuses on novel biomarkers and genomic research in a general population cohort.
- 4) Member of the Japan Epidemiological Association
- 5) Member of the Swedish Society of Medicine
- 6) Member of the Swedish Medical Association

- 7) Member of the Sleep Research Society
- 8) Member of the American Academy of Sleep Medicine

#### 5 Regional contributions

- 1) Involved in a collaborative project with Kanagawa prefecture analyzing the Kanagawa Database (KDB).
- 2) Member of the organizing committee for a symposium in Okinawa on the topic of Longevity and Healthy Ageing. The symposium is organized by the Royal Swedish Academy of Sciences and the Journal of Internal Medicine. The symposium has been postponed and will be held between October 28-29, 2022.

#### 8 Educational activities at KUHS/SHI

- 1) Gave a lecture on presentation skills at the KUHS Faculty Development Seminar in October, 2021.
- 2) Course manager of “Introduction to Epidemiology”
- 3) Course manager of “Oral presentation”
- 4) Course manager of “Global Health Policy”
- 5) Supervising 4 Masters’ Students (2 of these students graduated in 2021)
- 6) Guest lecturer for the course “Injury control”.
- 7) Guest lecturer for the course “Public Health Leadership”.

#### 9 Activities of various committees at KUHS/SHI

- 1) Serving on the International Affairs committee
- 2) Serving on the Admissions committee

#### 10 Grants-in-Aid for Scientific Research (*KAKENHI*) or other grants

- 1) Grant-in-Aid for Early-Career scientist, Japan Society for the Promotion of Science (JSPS). Duration: 2019.04 – 2021.03. Title of the research project: “A 12-month longitudinal study using deep learning techniques on objective and subjective sleep data”. The total amount received is 3,000,000 Yen. Due to the pandemic the Grant has been extended for another year.

#### 13 Patents and Copyrights

- 1) Application number: 2020-115700. Name&Contents: Health support devices, health support methods and programs.

#### 14 Other works

- 1) Ongoing international collaboration with Lund University in Sweden.

## 中村 翔

### 2 学術論文

- 1) Takeuchi K, Naito M, Kawai S, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Tamura T, Hishida A, Nakatochi M, Sasakabe T, Hashimoto S, Eguchi H, Momozawa Y, Ikezaki H, Murata M, Furusyo N, Tanaka K, Hara M, Nishida Y, Matsuo K, Ito H, Oze I, Mikami H, Nakamura Y, Kusakabe M, Takezaki T, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Suzuki S, Nishiyama T, Watanabe M, Koyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Kita Y, Ueshima H, Matsui K, Arisawa K, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Nakamura S, Narimatsu H, Hamajima N, Tanaka H, Wakai K. Study Profile of the Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. *J Epidemiol.* 2021 Dec 5;31(12):660-668. (IF 4.139, 被引用数 6)
- 2) Murano C, Suzuki S, Nakamura S, Takeda H, Fukui T, Yoshioka T. Vimentin-positive and Alpha-fetoprotein-elevated Nuclear Protein of the Testis Midline Carcinoma: A Case Report and Review of the Literature. *Intern Med.* 2021 Nov 15;60(22):3645-3649. (IF 1.22, 被引用数 0)
- 3) Kobayashi S, Koizume S, Takahashi T, Ueno M, Oishi R, Nagashima S, Sano Y, Fukushima T, Tezuka S, Morimoto M, Nakamura S, Narimatsu H, Ruf W, Miyagi Y. Tissue factor and its procoagulant activity on cancer-associated thromboembolism in pancreatic cancer. *Cancer Sci.* 2021 Nov;112(11):4679-4691. (IF 6.33, 被引用数 1)
- 4) de Luise C, Sugiyama N, Morishima T, Higuchi T, Katayama K, Nakamura S, Chen H, Nonnenmacher E, Hase R, Jinno S, Kinjo M, Suzuki D, Tanaka Y, Setoguchi S. Validity of claims-based algorithms for selected cancers in Japan: Results from the VALIDATE-J study. *Pharmacoepidemiol Drug Saf.* 2021 Sep;30(9):1153-1161. (IF 3.347, 被引用数 3)
- 5) Enomoto N, Nakamura S, Kanda S, Endo H, Yamada E, Kobayashi S, Kido M, Inoue R, Shimakura J, Narimatsu H. Efficacy of Additional Intervention to the Specific Health Guidance in Japan: The Takahata GENKI Project. *Risk Manag Healthc Policy.* 2021 Sep 21;14:3935-3943. (IF 4.527, 被引用数 0)
- 6) Tanaka K, Nakamura S, Narimatsu H. Nutritional Approach to Cancer Cachexia: A Proposal for Dietitians. *Nutrients.* 2022; 14(2):345. (IF 6.352, 被引用数 0)
- 7) 中村翔. 予防医療 (検診、健診). 神奈川県立保健福祉大学誌. 2022; 19(1):31-35.

### 4 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 神奈川県 ME-BYO リビングラボ専門委員 (平成 31 年 4 月～)
- 2) 神奈川県新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部搬送調整班 (令和 3 年 1 月～)
- 3) 横浜市医師会 胃がん検診精度管理委員 (令和 3 年 6 月～)
- 4) 横浜市医師会 大腸がん検診精度管理委員 (令和 3 年 6 月～)
- 5) 横浜市医師会 乳がん検診精度管理委員 (令和 3 年 6 月～)
- 6) 横浜市医師会 子宮がん検診精度管理委員 (令和 3 年 6 月～)
- 7) 横浜市医師会 肺がん検診精度管理委員 (令和 3 年 6 月～)

- 8) 横浜市医師会 前立腺がん検診精度管理委員 (令和3年6月～)
- 9) 特定非営利活動法人地域健康プラン倫理審査委員会委員長 (令和3年11月～)
- 10) 一般社団法人 全国がん患者団体連合会 (全がん連) がん教育外部講師.
- 11) 一般社団法人日本内科学会正会員, 認定内科医.
- 12) 一般社団法人日本癌治療学会正会員.
- 13) 公益社団法人日本臨床腫瘍学会正会員, がん薬物療法専門医.
- 14) 日本癌学会, 正会員.
- 15) 一般社団法人日本人類遺伝学会, 臨床遺伝専門医専攻医.
- 16) 一般社団法人日本公衆衛生学会, 正会員.
- 17) 公益社団法人日本産業衛生学会, 正会員.
- 18) 一般社団法人日本疫学会, 正会員.
- 19) 一般社団法人日本家族性腫瘍学会, 正会員.
- 20) Society for Epidemiologic Research, 正会員.
- 21) International Epidemiological Association, 正会員.
- 22) 公益社団法人日本オペレーションズリサーチ学会, 正会員.

## 6 講演, 放送

- 1) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「前立腺がん検診の結果」. 第2回横浜市医師会 前立腺がん検診精度管理委員会. 令和4年3月7日 (横浜[オンライン開催])
- 2) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「肺がん検診の結果」. 第2回横浜市医師会 肺がん検診精度管理委員会. 令和4年3月7日 (横浜[オンライン開催])
- 3) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「胃がん (X線・内視鏡) 検診の結果」. 第3回横浜市医師会 胃がん (X線・内視鏡) 検診精度管理委員会. 令和4年3月18日 (横浜[オンライン開催])
- 4) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「大腸がん検診の結果」. 第3回横浜市医師会 大腸がん検診精度管理委員会. 令和4年3月18日 (横浜[オンライン開催])
- 5) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「乳がん検診の結果」. 第4回横浜市医師会 乳がん検診精度管理委員会. 令和4年3月23日 (横浜[オンライン開催])
- 6) 中村翔. 横浜市がん検診とがん登録のリンケージ事業について「子宮がん検診の結果」. 第4回横浜市医師会 子宮がん検診精度管理委員会. 令和4年3月23日 (横浜[オンライン開催])

## 7 学会等での活動

- 1) Yoshinobu Saito, Yuko Oguma, Haruhiko Imamura, Takayuki Tajima, Sho Nakamura, Kaname, Watanabe, Hiroto Narimatsu. 8th International Society for Physical Activity and Health Virtual Congress (ISPAH 2021). 令和3年10月12-14日 (米国). Abstract 318: Physical activity, social capital and health status among older adults: a structural

equation modeling analysis.

- 2) 高橋鴻志, 中村翔, 渡邊要, 成松宏人, 阪口昌彦. 第 80 回日本公衆衛生学会総会. 令和 3 年 12 月 21-23 日 (東京). 地方自治体の医療資源・財政状況・検診政策と, がん検診受診率との関係について.
- 3) Sho Nakamura, Hiroto Narimatsu. World Congress on Epidemiology 2021. 3-6th September 2021. (Australia [WEB]) Data envelopment analysis for predicting pre-diabetes for primary disease prevention.
- 4) 中村翔, 小笠原悠, 阪口昌彦. 日本オペレーションズリサーチ学会ヘルスケアの OR 研究部会. 令和 4 年 2 月 5 日 (WEB 開催). BMI 関連 SNPs を応用したデータ包絡分析解析 ~Directional efficiency を利用して~.
- 5) 中村翔. 文部科学省科学研究費助成事業新学術領域研究「学術研究支援基盤形成」コホート・生体試料支援プラットフォーム 令和 3 年度若手支援研究成果発表会. 令和 4 年 3 月 14 日 (WEB 開催). BMI 関連 SNPs を応用したデータ包絡分析解析.

## 8 学内教育活動

- 1) 大学院 (修士課程、博士課程)
- 2) 疫学研究 / 疫学演習 / 臨床試験 / ヘルスイノベーション演習基礎 / ヘルスイノベーション演習

## 9 学内各種委員会活動

- 1) ヘルスイノベーション研究科研究倫理審査委員
- 2) 企画広報委員会
- 3) 地域広報委員会
- 4) FD・SD 委員会

## 10 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 科学研究費助成事業 若手研究. 課題番号: 20K19713 「BMI 関連遺伝リスクと生活習慣の相互作用を肥満対策へ実用化する研究」. (代表研究者)
- 2) 科学研究費助成事業 基盤研究 (C). 課題番号: 20K10420 「要介護高齢者の自立支援型介護の効果と介護事業者へのインセンティブメカニズムの研究」. (分担研究者)
- 3) 神奈川県委託事業. 未病指標の精緻化等に関する実証事業.
- 4) 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 (令和 3 年度先進異分野融合プロジェクト研究立案・推進事業). ゲノムコホートを活用した COVID-19 に関する市中モニタリングと対策研究基盤知見などの創出. (実務担当)
- 5) 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 (令和 3 年度先進異分野融合プロジェクト研究立案・推進事業). ゲノムコホートを活用した COVID-19 に関する市中モニタリングと対策研究基盤知見などの創出. 新型コロナウイルスワクチン抗体価と腸内環境や食習慣に関する後ろ向きコホート研究. (実務担当)
- 6) 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 (文部科学省. イノベーションシステム整備事業. 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム) 「神奈川発「ヘルスケア・ニューフロンティア」先導プロジェクト」神奈川県みらい未病コホート研究 (ハイブ

リッドゲノムコホート研究)。

#### 11 学内研究助成金の受託

- 1) ヘルスイノベーション推進研究費。「グローバルヘルスに還元するがん対策：Kanagawa Shanghai 比較共同研究」。(分担研究者)

#### 14 その他

- 1) 慶應義塾大学スポーツ医学研究センター、神奈川県立がんセンター、湘南ロボケアセンターとの共同研究。ヘルスケアロボットを活用した介護予防プログラムの開発（神奈川県みらい未病コホート研究を基盤としたランダム化比較試験）。
- 2) 神奈川県立保健福祉大学 栄養学科/保健福祉学研究科（代表 中島啓先生）。神奈川県立保健医療データ（NDB・KDB）を用いた臨床疫学研究。
- 3) 神奈川県立保健福祉大学 栄養学科（倉貫 早智先生）との共同研究。栄養指導ガイド（免疫力検定）の神奈川県みらい未病コホート研究での実証研究。
- 4) 神奈川県立保健福祉大学 栄養学科（田中 琴音先生）との共同研究。ゲノムコホート研究を活用した栄養疫学研究。
- 5) 株式会社メタジェン、地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所との共同研究。新型コロナウイルス抗体保有者の生活習慣や腸内環境を解析する共同研究。
- 6) デジタルピアサポートアプリ「みんなチャレ」の行動変更へのインパクト評価に関するパイロット研究。
- 7) 民間企業2社（フィットネス提供およびゲノム解析企業）、神奈川県立がんセンターとの共同研究。肥満の遺伝学的リスクスコアと食事・運動介入プログラムの効果に関する研究。
- 8) 神奈川県、株式会社かながわテクノロジーイノベーションズ、特定非営利活動法人地域健康プランとの社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築に関する共同研究。
- 9) 横浜国立大学大学院 交通と都市研究室、慶應義塾大学スポーツ医学研究センターとのヘルスケア MaaS に関する共同研究。
- 10) 電気電子情報工学専攻 情報通信工学部門 通信システム工学講座 サイバーセキュリティ工学領域との PDDI による医学系レジストリーデータの名寄せに関する共同研究。
- 11) 横浜国立大学大学院工学研究院知的構造の創生部門 電気電子と数理情報分野との、先進技術を応用した転倒予防に関する共同研究（神奈川県みらい未病コホート研究とも連携）。
- 12) 厚生労働省老健局老人保険課。要介護認定情報等の提供に関する承諾（要介護高齢者の自立支援型介護の効果と介護事業者へのインセンティブメカニズムの研究）。（大阪成蹊大学経営学部との共同研究）
- 13) 科学研究費助成事業 新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』。課題番号：16H06277「コホート・生体試料支援プラットフォーム」（分担研究者 成松宏人）における、神奈川サイトである神奈川県みらい未病コホート研究の事務局長として、ゲノムコホート研究の運営。
- 14) 横浜市医師会との共同研究。横浜市がん検診とがん登録のリンケージ共同研究。
- 15) 大阪電気通信大学情報通信工学部情報工学科、東京都立大学都市環境学部 観光科学科と

の共同研究、ヘルスケアの OR: DEA および AHP の医療研究への応用。